

# 営業状況等統計調査

(平成28年度財務諸表等より)

— 平成29年度 —

< 解 説 編 >



日本  
旅館  
協会

一般社団法人 日本旅館協会  
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

# 平成 29 年度 営業状況等統計調査

## 目 次

### <解説編>

営業状況等統計調査票 .....	2
会員数と回答旅館ホテルの内訳 .....	6
はじめに .....	7
調査の概要 .....	7
 I.基本調査 .....	9
1. 回答旅館ホテルの規模 .....	9
2. 貸借対照表 .....	10
3. 売上高構成比 .....	11
4. 宿泊客 1 人当り売上高 .....	12
5. 定員稼働率・客室稼働率 .....	14
6. 売上効率 .....	15
7. 原価効率 .....	16
8. 経費率 .....	17
9. 客 1 人当り経費 .....	19
10. 利益率 .....	20
11. 就業者 .....	21
12. 従業員効率 .....	22
13. 建物面積効率 .....	23
14. 資本効率・資金回収年数 .....	24
 II.全件調査 .....	25
1. 集客の方法 .....	25
2. ホームページ .....	26
3. 外国人宿泊客 .....	27
4. インターネット対応 .....	28
5. クレジットカード .....	29
 むすび .....	29

# 平成29年度 営業状況等統計調査票

①

直近の事業年度の決算等にもとづいて記入し、  
平成29年 9月8日までにご提出ください。

1

## A. 業態と地域（必須）

業態		1. 宿泊料金には夕食・朝食を含む 旅館営業	2. ルームチャージのみで販売する ホテル営業	摘要	1. 旅館業と2. ホテル業の双方に該当する場合は、1. をお選びください。
----	--	---------------------------	----------------------------	----	--

地域	③	以下より該当する地域を1から9の番号をお選び下さい。
----	---	----------------------------

- 1 北海道 …………… 北海道  
 2 東北 …………… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県  
 3 関東 …………… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県  
 4 北陸信越 …………… 新潟県、富山県、石川県、長野県  
 5 中部 …………… 福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県  
 6 関西 …………… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県  
 7 中国 …………… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県  
 8 四国 …………… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県  
 9 九州 …………… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

## B. 客室数と面積（必須）

	和室の数		和洋室の数		洋室の数		合 計	
客室数	4	室	5	室	6	室	7	室

建物延べ面積	8	m <sup>2</sup>
--------	---	----------------

## C. 宿泊人員、営業日数等

収容定員	9	人
年間営業日数	10	日
年間販売可能客室数	11	室
年間延べ宿泊人員	12	人
旅行者経由の宿泊人員	13	%
ネット業者経由の宿泊人員	14	%
自社HPからの宿泊人員	15	%
宿泊人員のうち外国人	16	%
年間延べ日帰り食事利用人員	17	人
年間延べ利用客室数(宿泊のみ)	18	室

外国人の国籍			
韓 国	19		人
台 湾	20		人
中 国	21		人
香 港	22		人
タ イ	23		人
米 国	24		人
英 国	25		人
その他	26		人

## D. 標準宿泊料金(サ込み税別)

1. 閑散期に設定している宿泊料金	27	円	～	28	円
2. 繁忙期に設定している宿泊料金	29	円	～	30	円

裏面に続く

## E-1. 損益計算書(消費税除く)

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

科目		金額		摘要	
総売上高		31	千円	決算書上の売上高を記入してください。ただし、付帯事業があって、売上高から経費、営業利益まで旅館ホテル業と分離可能な場合は分離して下記枠外に売上高等をご記入ください。分離できない場合は、合算額でご記入下さい。	
内 訳	宿泊客収入	32	千円	宿泊料売上げをご記入ください。ただし、諸税は含めないでください。	
	追加料理等	33	千円	1泊2食に含まれない追加料理、特別料理の売上	
	飲料・冷蔵庫	34	千円	酒類、ソフトドリンク、客室冷蔵庫売上	
	料理売上	35	千円	レストラン、日帰り宴会等料理売上(会場費、施設使用料含む)	
	飲料売上	36	千円	日帰り飲料売上	
	売店売上	37	千円	土産品、タバコなどの売店売上	
	その他売上	38	千円	娯楽施設などの売上、花代、出前、クリーニング等の収入	
	雑収入	39	千円	上記以外の収入。なお、サービス料(奉仕料)は該当する売上に含めてください	
	付帯事業売上	40	千円	旅館事業以外の売上	主な事業内容:
	売上原価	41	千円	決算書の売上原価を記入してください	
内 訳	期首棚卸し残高	42	千円	期首棚卸し残高の総額を記載ください	
	料理材料費	43	千円	料理材料仕入	
	飲料仕入	44	千円	酒類、清涼飲料水などの仕入	
	売店仕入	45	千円	売店商品仕入	
	その他仕入	46	千円	その他売上、付帯事業売上にに関する仕入	
	期末棚卸し残高	47	千円	期末棚卸し残高の総額を記載ください	
売上総利益		48	千円	決算書の売上総利益を記入してください	
人件費、販売費及び一般管理費		49	千円	人件費、販売関連費用、業務経費、エネルギー経費、建物およびその他管理経費、減価償却費等諸経費合計	
営業利益		50	千円	決算書の営業利益を記入してください(損失の場合△印)	
営業外収益		51	千円	受取利息、受取配当金、その他営業外収入	
営業外費用		52	千円	支払利息、割引料その他営業外費用	
(うち支払利息)		53	千円	前項のうち支払い利息のみ	
経常利益		54	千円	決算書の経常利益を記入してください(損失の場合△印)	

## E-2. 人件費、販売費及び一般管理費の内訳 (E-1.損益計算書の事業年度のものでご記入願います)

給与・賞与 (役員報酬を含む)	55	千円	役員、社員、パートタイマー、アルバイトの給与と賞与の合計	
法定福利費	56	千円	社会保険料、雇用保険料等の会社負担分	
その他人件費	57	千円	制服代、賄費、その他福利厚生費、退職金	
外注費	58	千円	清掃・夜警等の外部委託費、配膳会等人材派遣会社への支払い	
送客手数料	59	千円	旅行業、ネット業者及び総合案内所に支払う送客手数料	
カード手数料	60	千円	カード会社への支払手数料	
広告宣伝費	61	千円	広告費、広告制作費に関わる費用	
接待交際費	62	千円	得意先への接待、贈答品、冠婚葬祭費	
旅費交通費	63	千円	出張旅費、一般交通費など	
消耗品費	64	千円	箸、固形燃料、お膳紙、歯ブラシ、タオル、石鹸、トイレトペーパーなど	
備品費	65	千円	減価償却の対象とならない備品の購入費用	
洗濯リネン費	66	千円	シーツ、抱布、枕カバー、バスタオル、浴衣、丹前等の洗濯代、リネン費用	
水道光熱費 (燃料費を含む)	67	千円	上下水道、電気、ガス、重油、灯油、温泉などの費用	
修繕費	68	千円	固定資産、什器備品、送迎営業車輛等の修繕に要した費用	
賃借料	69	千円	支払地代、支払家賃、事務機(コンピューター、FAX、コピー機等)のリース料等	
通信費	70	千円	電話料金、切手代、宅配便など	
減価償却費	71	千円	決算上の減価償却費をご記入ください。	
その他	72	千円	上記に含まれないもの、端数調整など	
合 計	73	千円		

## F. 貸借対照表

平成 年 月 日現在

※直近の決算書よりご記入下さい

借 方				貸 方			
科目		金 額		科目		金 額	
流動資産	74		千円	負債の部	流動負債	78	千円
固定資産	75		千円		(うち短期借入金)	79	千円
繰延資産	76		千円		固定負債	80	千円
					(うち長期借入金)	81	千円
				純資産の部 (資本金・剰余金)		82	千円
資産の部合計	77		千円	負債・資本の合計		83	千円

## G. 就業者

区分	項目	就業者数	
	常勤役員	84	人
	正社員	85	人
	パートタイマー	86	人

注1. 就業者数(正社員・常勤パートタイマー)は、各月末の就業者数の合計(12ヶ月分)を12で除した平均値をご記入下さい。

## H.. 従業員(正社員)の平均年齢は何歳ですか

男性	87	歳	女性	88	歳
----	----	---	----	----	---

裏面に続く

I. 次の設問についてもよろしくご協力願います。（該当する番号に「○」もしくは番号を右側の□(四角枠)にご記入ください）

4

#### Q1.サービス料について

1. サービス料(奉仕料)を設定している	2. 設定していない	89
(※予約段階でサ込み表示されていても、館内販売含め何らかの設定がある場合、設定しているにお答え下さい)		

#### Q2.インターネット対応の状況について

① HP(ホームページ)の開設状況はいかがですか。	90					
1. 自社専用HPがある(次の2. は含まない)	2. エージェント等のサイト内に自社HPがある					
3. 旅館組合等やエージェントのHPに掲載されている	4. 自社HPは開設していない					
② HPの対応言語をお答えください。(複数回答)	91					
1. 日本語のみ	2. 英語	3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)	4. 中国語(簡体字/大陸向け)	5. 韓国語	6. タイ語	7. 仏語
8. 独語	9. その他( )					
③ 外国語HPを作成されていない旅館のみお答えください。外国語のHPを作成する必要があると思いますか。	92					
1. はい	2. いいえ					
④ HPから即時予約することが可能ですか。	93					
1. はい	2. いいえ					
⑤ 即時予約可能なHPがある場合、その対応言語に○をつけて下さい。	94					
1. 日本語のみ	2. 英語	3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)	4. 中国語(簡体字/大陸向け)	5. 韓国語	6. タイ語	7. 仏語
8. 独語	9. その他( )					
⑥ サイトコントローラー(手間いらず、ねっぱん、TLリンカーン等)を導入していますか。	95					
1. はい	2. いいえ					
⑦ 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)を設置していますか。	96					
1. はい	2. いいえ					
⑧ (上記で「はい」の方のみ) 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)の設置場所はどちらですか。(複数回答)	97					
1. 全館	2. ロビー	3. 客室	4. 会議室	5. 宴会場	6. その他( )	

#### Q3.外国人客の受け入れについて、近いと思われるものをお答え下さい

1. 料金に関わりなく受け入れたい	2. 高単価の外国人客のみ受け入れたい	3. 日本人観光客を優先する	98
4. 外国人客は受け入れたくない			

#### Q4.入浴施設

A. 露天風呂の有無(複数回答)	99		
1. 一般的な露天風呂	2. 客室露天風呂	3. 貸し切り露天風呂	4. 無
B. 温泉の有無	100		
1. 有	2. 無		

#### Q5.クレジットカード対応の状況について

① クレジットカードによる決済は可能ですか	101							
1. 可	2. 不可							
② 【①の設問で1と答えた場合】利用できるカードの種類をお答えください(複数回答可)	102							
1. VISA	2. Master Card	3. JCB	4. 三菱UFJニコス(MUFG,DC,UFJ,ニコス)	5. UC	6. イオン			
7. Diners	8. AMEX	9. その他 ( )						
③ 決済処理にカード決済端末を導入していますか	103							
1. 導入している	2. 導入していない							
④ 【③の設問で1と答えた場合】どのカード決済端末を使っていますか	104							
1. C-REX	2. INFOX	3. JET-S	4. その他( )					
⑤ 総売上高に占めるクレジットカード決済の割合はどれくらいですか								
					回答	105		%

ご協力ありがとうございました。

# 一般社団法人 日本旅館協会 (平成29年度4月1日現在)

地域(支部連合会)	会 員 数	区 分
北 海 道	200	北海道
東 北	292	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関 東	470	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	491	新潟県、富山県、石川県、長野県
中 部	332	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関 西	367	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中 国	156	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四 国	137	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九 州	254	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合 計	2,699	



●旅館営業とは、宿泊料金に夕食・朝食を含むところとした。

大旅館……客室数 100室以上

中旅館……客室数 31室以上99室以下

小旅館……客室数 30室以下

●ホテル営業とは、ルームチャージのみで販売するところとした。

## <平成28年度 営業状況等統計調査回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数	区 分			総回答数
		大 旅 館	中 旅 館	小 旅 館	
旅 館	254	45	116	93	305
北海道	12	4	5	3	26
東北	32	11	14	7	57
関東	36	4	22	10	36
北陸信越	41	3	20	18	41
中部	28	7	11	10	28
関西	47	8	18	21	47
中国	17	3	5	9	17
四国	14	2	5	7	14
九州	27	3	16	8	27
黒字旅館	176	34	83	59	-
赤字旅館	78	11	33	34	-
ホ テ ル	25	3	16	6	28

(注) 損益計算が十分な回答を有効とした。全軒調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

## 〈はじめに〉

この調査は当協会のすべての会員に調査票を送付して実施しています。本年は333軒の会員から回答が寄せられました。ご協力頂いた会員各位にはこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

旅館ホテルはわが国の観光旅行の社会基盤であり、近年急激な勢いで増加する訪日外国人客を受け入れる社会資本です。しかも、単に宿泊機能を提供する器にとどまらず、「おもてなし」に代表されるわが国の独自文化を提供しています。加えて多くの会員はわが国の伝統文化を日常的に維持発展させる役割を自ら担っています。

この調査は当協会の会員である旅館ホテルの経営の現状を分析することで、会員各位の経営基盤の安定に寄与すべく実施するものです。

今般、平成29年度の調査分析がまとまりましたので、当協会のホームページに上程します。

### (1) 対象年度を振り返る

平成28年は訪日外国人旅行客が2,404万人と4年連続で過去最高となった。

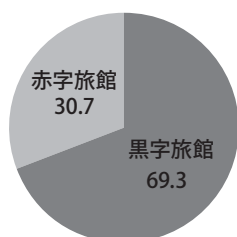
- ・国籍別の訪日客数をみると、
  - 中国 637万人(前年比 127.6%)
  - 韓国 509万人(127.2%)
  - 台湾 417万人(113.3%)
  - 香港 184万人(120.7%)
  - 米国 124万人(120.3%)
  - タイ 90万人(113.2%)
  - 豪州 45万人(118.4%) 出典JNTO(日本政府観光局)

となっている。

・観光庁の報告書によると、訪日外国人の平均泊数は10.1日で、消費額は1人当たり155,896円となっている。消費総額は年3兆7,476億円となり、うち27.1%が宿泊費と言われる。

・国籍別平均消費額が多いのは豪州246,866円、中国231,504円となっており、韓国は滞在日数が短いため70,281円となっている。

図1 黒字・赤字旅館の割合 (単位：%)



## (2) 調査の概要 〈表1、表2、図1〉

この調査は「Ⅰ.基本調査」と「Ⅱ.全件調査」の2部構成となっている。基本調査は、損益計算や客室数、利用人員等の記述が十分な回答(有効回答)を対象としている。

全件調査は上記の回答には不十分であるが、部分的であっても回答を寄せている調査票を加える形で集計している。

また、規模別集計を実施しているが、その基準は客室数としている。

- ・大旅館：100室以上
- ・中旅館：31室以上99室以下
- ・小旅館：30室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字旅館」「赤字旅館」としている。

ホテルについては回答軒数が限られることから内訳分析をおこなっていない。

### (3) 回答率

今年度の調査票発送部数は2,673軒、回答は旅館305軒、ホテル28軒となっている。うち有効回答は旅館254軒、ホテル25軒となっている。2,673軒に対する有効回答率は10.4%となっている。

規模別の有効回答数をみると、大旅館の回答数が10軒増加し45軒となっている。中旅館が最も多く116軒、小旅館は93軒の回答であった。

表1 有効回答旅館の推移 (単位：軒)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
回 答 軒 数	平成 23 年	55	106	33	194	—
	24 年	48	106	82	236	22
	25 年	50	122	79	251	21
	26 年	50	111	83	244	23
	27 年	35	123	84	242	29
	28 年	45	116	93	254	25

表2 黒字旅館の推移 (割合) (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成 23 年	45.5	47.2	27.3	43.3	—
24 年	79.2	56.6	51.2	59.3	68.2
25 年	72.0	69.7	58.2	66.5	81.0
26 年	80.0	57.7	56.6	61.9	69.6
27 年	80.0	76.4	66.7	73.6	86.2
28 年	75.6	71.6	63.4	69.3	68.0



規模別の回答は、

- ・大旅館 45 軒 (+10 軒、+28.6%)
- ・中旅館 116 軒 (▲7 軒、▲5.7%)
- ・小旅館 93 軒 (+9 軒、+10.7%)

(ホテル) 回答は 25 軒で 4 軒の減少であった。

#### (4) 黒字・赤字の割合

経常利益で黒字・赤字を区分している。平成23年には43.3%にとどまる黒字の割合が、今年度は69.3%となっている。近年の黒字比率がもっとも高かったのは前年で、本年度は各規模とも前年を下回る。営業効率が前年よりも若干悪化したことで黒字の割合が減少した。規模別では大旅館ほど黒字割合が高くなっている。

- ・大旅館 75.6% (▲4.4p、▲5.5%)
- ・中旅館 71.6% (▲4.8p、▲6.3%)
- ・小旅館 63.4% (▲3.3p、▲4.9%)

(ホテル) 黒字は68.0%で前年を18.2p下回る。

#### (5) 今年度の主な変更点

- ・調査票は変更なし。解説編において数値表記の方針を新たに定めた。
- ・本文中の数値は四捨五入で表記している。但し、変化率は四捨五入する前の元の数値より算出している。

#### (6) この報告書の編集方針

##### a) 解説編の表記方法について

- ・この調査は平成28年度の決算書を対象に平成29年度に実施している。各表の最新年度は「28年」と表記している。
- ・前年との比較:例えば「大旅館 20,000円 (▲500円、▲2.4%)」と表記した場合、20,000円は今年度の集計結果であり、( )内は前年度との比較を示す。
- ・数値が前年を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付す。
- ・%同士の引き算(例えば、14.4%－14.7%)の結果を%で表記すると100分率と混同があるので、単位をポイントとし「p」と表記する。

・通常の決算書で「販売費及び一般管理経費」と言われる経費を表3の区分としている。

- ・人件費は給与、福利費、その他給与に加え外注費も加えている。
- ・営業経費は送客手数料、客用消耗品などお客様の利用によって増減するものとしている。
- ・管理経費は固定的な経費としている。
- ・解説は旅館を中心におこない、ホテルについては行頭に(ホテル)と明記している。

##### b) 資料編について

資料編は集計結果のみを掲載している。留意点は次のとおり。

- ・調査は自主回答であるため一部に無回答がある。そこで項目ごとに集計対象を見直す処理(DK処理)をおこなっている。
- ・旅館平均、規模別、地域別、黒字・赤字別に集計しているが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直している。

旅館の原価率＝旅館の原価÷旅館の売上

黒字の原価率＝黒字の原価÷黒字の売上

赤字の原価率＝赤字の原価÷赤字の売上

- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分している。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過小の数値については、その項目を不明としている。
- ・また回答が2軒以下の場合は、算出された数値はブランクとしている。例えば、九州の大旅館は回答軒数が少ないために表示しないが、九州全体の平均には含めている。

表3 経費区分

人 件 費	給与・賞与、法定福利費、その他人件費、外注費
営 業 経 費	送客手数料、カード手数料、広告宣伝費、接待交際費、旅費交通費、客用消耗品費、洗濯リネン費
管 理 経 費	水道光熱費、修繕費、備品費、貸借料、通信費、その他
減 価 償 却 費	減価償却費

## I. 基本調査

基本調査は旅館ホテルの経営状況を分析する。

### 1. 回答旅館ホテルの規模 〈表 4、表 5〉

#### (1) 総客室数・収容定員

今年度の1軒当りは客室数59室、収容定員264人となっている。規模別では、

- ・大旅館 149室 (▲6室、▲3.6%)
- ・中旅館 56室 (▲2室、▲3.8%)
- ・小旅館 20室 (+1室、+4.9%)

大旅館は6室小さくなっている。

収容定員は、

- ・大旅館 657人 (+1人、+0.2%)
- ・中旅館 254人 (▲11人、▲4.0%)
- ・小旅館 87人 (+8人、+10.1%)

と中旅館でマイナスとなっている。

(ホテル)客室数64部屋定員98名となっている。

#### (2) 1室当り定員

1室当り定員 = 収容定員 ÷ 総客室数

1室当り定員は、和室を中心とする旅館で多く、洋室が中心のホテルは少ない。旅館の1室当り定員は平均で4.5人となっており、規模別では中旅館が4.5人となっている。

(ホテル)1室当り定員は1.5人となっている。

#### (3) 総売上高・宿泊人員

今年度の1軒当り総売上高は、

- ・大旅館 18億9,102万円  
(▲2億2,908万円、▲10.8%)
- ・中旅館 5億8,865万円  
(▲1億292万円、▲14.9%)
- ・小旅館 2億2,731万円  
(+2,660万円、+13.3%)

となっている。大旅館、中旅館ともに10%以上の減少となっている。

黒字・赤字別では、売上高に顕著な差がある。

・大旅館 黒字20億8,859万円 赤字12億8,037万円  
・中旅館 黒字6億6,766万円 赤字3億8,993万円  
・小旅館 黒字2億8,224万円 赤字1億3,199万円  
(ホテル)総売上高は2億3,133万円と前年を大幅に下回った。

年間宿泊人員は、

- ・大旅館 91,766人 (▲2,509人、▲2.7%)
- ・中旅館 32,953人 (▲1,751人、▲5.0%)
- ・小旅館 10,859人 (+1,056人、+10.8%)

となっている。前年との比較では、大旅館と中旅館でマイナス、小旅館でプラスになっている。

(ホテル)宿泊人員は前年を1万人下回る。

表4 1軒当り総客室数・収容定員・1室当り定員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総客室数(室)	平成23年	168	60	21	84	—
	24年	168	60	19	68	71
	25年	186	59	18	71	65
	26年	158	55	18	64	99
	27年	155	58	19	59	88
	28年	149	56	20	59	64
収容定員(人)	平成23年	735	279	92	376	—
	24年	723	284	83	303	118
	25年	775	273	74	310	122
	26年	687	242	76	277	178
	27年	656	265	79	257	143
	28年	657	254	87	264	98
1室当り定員(人)	平成23年	4.4	4.6	4.4	4.5	—
	24年	4.3	4.7	4.3	4.5	1.6
	25年	4.2	4.6	4.2	4.3	1.9
	26年	4.4	4.4	4.2	4.4	1.8
	27年	4.2	4.5	4.2	4.4	1.6
	28年	4.4	4.5	4.4	4.5	1.5

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総売上高(万円)	平成23年	161,591	70,105	19,536	87,440	—
	24年	188,575	64,855	17,196	73,459	41,287
	25年	206,962	65,962	19,573	79,449	23,922
	26年	184,817	60,218	19,413	71,870	76,481
	27年	212,010	69,157	20,071	72,780	72,516
	28年	189,102	58,865	22,731	68,709	23,133
年間宿泊人員(人)	平成23年	91,105	35,809	8,492	46,839	—
	24年	95,103	33,950	8,181	37,434	19,792
	25年	104,305	34,373	7,937	39,983	21,734
	26年	94,992	30,415	8,966	36,352	35,068
	27年	94,275	34,704	9,803	34,676	29,959
	28年	91,766	32,953	10,859	35,283	19,948

## 2. 貸借対照表〈表6、表7、表8〉

### (1) 資産の状況

1軒当り総資産は減少となった。

- ・大旅館 29億6,288万円  
(▲9億5,743万円、▲24.4%)
- ・中旅館 8億5,902万円  
(▲3億4,434万円、▲28.6%)
- ・小旅館 3億201万円  
(▲2,802万円、▲8.5%)

(ホテル)総資産は5億7,157万円であった。

#### ①流動資産

流動資産は現預金や売掛金など流動性の高い資産である。総資産に占める割合は18.0%と前年より減少している。ただし、小旅館は増加となっている。(ホテル)流動資産は16.5%と旅館より低い。

#### ②固定資産

固定資産は総資産の81.9%を占めるが、前年よりも4.7pの増加となっている。(ホテル)83.1%で前年と同水準となっている。

## (2) 負債・資本の状況

### ①流動負債

流動負債は、1年以内に返済予定の借入金、支払予定の買掛金や税金などであり、総資産の18.5%を占める。流動負債(18.5%)が流動資産(18.0%)を上回っている。すなわち、支払いの予定が手元資金を上回っている。新たな入金や借入れなどで、資金がただちにショートすることは考えにくいだが、注意しておきたい。(ホテル)流動資産が16.5%であるのに対して流動負債は10.6%となっている。

### ②長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計は、総資産の77.0%で前年を13.4p上回る。大旅館と中旅館で前年を大幅に上回り、小旅館では前年を下回った。(ホテル)長短借入金は前年より大幅な増加となっている。

### ③自己資本比率

自己資本は資本金と剰余金からなる。その構成比は9.3%となっている。小旅館は19.1%と高くなっている。(ホテル)自己資本比率は12.9%と旅館より高い。

表6 1軒当り資産

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資産額 (万円)	平成 23 年	307,118	119,697	35,141	160,116	—
	24 年	350,180	128,010	37,830	143,818	120,998
	25 年	408,126	125,049	29,483	149,841	36,289
	26 年	283,044	88,420	26,652	108,992	207,953
	27 年	392,031	120,336	33,003	129,993	219,010
	28 年	296,288	85,902	30,201	101,287	57,157
長短借入金合計 (万円)	平成 23 年	265,531	95,835	23,678	133,153	—
	24 年	279,780	91,199	24,754	108,031	80,492
	25 年	252,004	80,257	22,463	95,357	27,302
	26 年	224,596	70,305	17,064	85,129	52,095
	27 年	250,610	75,457	21,940	82,641	66,109
	28 年	236,663	65,767	19,785	77,989	38,362

表7 貸借対照表

(単位: %)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	18.7	16.2	21.0	18.0	16.5
固定資産	81.2	83.7	78.6	81.9	83.1
繰延資産	0.1	0.1	0.4	0.1	0.4
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	19.9	17.4	15.8	18.5	10.6
(うち短期借入金)	13.2	6.1	4.9	9.6	2.4
固定負債	71.0	75.9	65.1	72.2	76.5
(うち長期借入金)	66.6	70.5	60.6	67.4	64.7
(長短借入金合計)	79.9	76.6	65.5	77.0	67.1
自己資本	9.1	6.6	19.1	9.3	12.9
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	平成 23 年	18.9	15.4	19.3	17.4	－
	24 年	18.5	16.4	20.3	17.8	10.5
	25 年	22.9	20.6	15.3	21.4	19.2
	26 年	20.0	17.3	21.4	19.1	21.6
	27 年	24.0	22.1	17.6	22.5	16.8
	28 年	18.7	16.2	21.0	18.0	16.5
固定資産	平成 23 年	80.8	82.1	79.5	81.3	－
	24 年	81.4	83.4	77.1	81.8	89.5
	25 年	76.7	78.8	84.4	78.0	80.7
	26 年	79.8	82.1	78.1	80.5	77.7
	27 年	75.8	77.6	81.8	77.2	83.2
	28 年	81.2	83.7	78.6	81.9	83.1
長短借入金合計	平成 23 年	86.5	80.1	67.4	83.2	－
	24 年	79.9	71.3	65.4	75.1	66.5
	25 年	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2
	26 年	79.4	79.5	64.0	78.1	25.1
	27 年	63.9	62.7	66.5	63.6	30.2
	28 年	79.9	76.6	65.5	77.0	67.1

### 3. 売上高構成比 〈図2、表9〉

売上高の内訳である「宿泊料収入」「追加料理」「飲料売上」「売店売上」等の記述がない回答については、主に平均値から補足し推定している。

宿泊料売上は全体の74.2%を占め、次いで日帰り料飲6.4%、その他・雑収入5.7%、宿泊料飲5.6%、売店5.2%、付帯事業2.9%となっている。

(ホテル) 宿泊料売上げは46.7%となっている。

また、日帰り料飲は32.2%と旅館を上回る。

#### (1) 宿泊料売上

総売上高に占める宿泊料は74.2%で前年度よりも2.0p増加した。

- ・大旅館 72.4% (▲1.4p、▲1.9%)
- ・中旅館 76.5% (+4.9p、+6.8%)
- ・小旅館 74.2% (+5.6p、+8.2%)

黒字・赤字別では、

- ・大旅館 黒字72.6% 赤字71.5%
- ・中旅館 黒字76.2% 赤字77.6%
- ・小旅館 黒字75.2% 赤字70.7%

大旅館と中旅館では黒字・赤字に顕著な差が認められないが、小旅館では赤字旅館の宿泊料売上の割合が低い。

#### (2) 宿泊・料飲売上

宿泊客収入のうち追加料理と飲料・冷蔵庫を合計した料飲売上は平均で総売上高の5.6%(+0.2p)となっている。大旅館と中旅館では赤字旅館の方が高くなっている。

- ・大旅館 黒字5.5% 赤字6.3%
- ・中旅館 黒字5.6% 赤字6.3%
- ・小旅館 黒字5.3% 赤字5.1%

#### (3) 日帰り料飲売上

日帰り客料飲売上が総売上高に占める割合は平均で6.4%、小旅館で10.4%となっている。大旅館で4.4%と低い。

#### (4) 売店売上

売店売上の比率は長期的に低下している。規模が大きいほど売店売上の比率は高い。

- ・大旅館 6.3% (▲0.5p、▲7.4%)
- ・中旅館 4.4% (+0.1p、+2.3%)
- ・小旅館 3.6% (▲0.3p、▲7.7%)

図2 売上構成比 (単位：%)

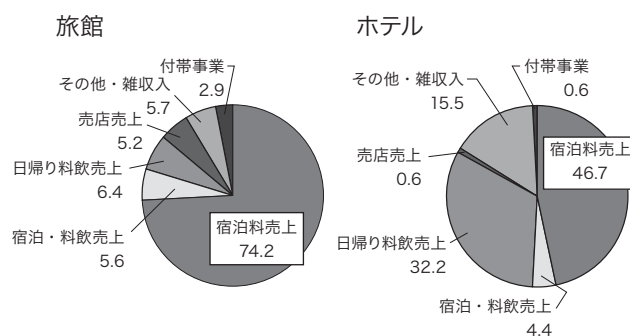


表9 売上高構成

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿泊料売上	平成23年	68.5	67.5	64.2	67.9	—
	24年	65.5	68.5	63.3	66.5	28.4
	25年	67.1	68.6	72.1	68.1	47.2
	26年	70.5	68.2	67.2	69.3	33.0
	27年	73.8	71.6	68.6	72.2	32.8
	28年	72.4	76.5	74.2	74.2	46.7
宿泊・料飲売上	平成23年	6.3	5.7	5.1	6.0	—
	24年	6.0	5.4	4.5	5.6	1.3
	25年	5.5	6.7	5.0	5.9	5.9
	26年	6.2	5.9	5.1	6.0	1.7
	27年	5.2	5.8	4.9	5.4	0.8
	28年	5.6	5.7	5.2	5.6	4.4
日帰り料飲売上	平成23年	7.1	9.5	17.3	8.5	—
	24年	10.5	9.1	19.4	10.7	48.2
	25年	9.0	9.2	11.5	9.3	32.5
	26年	5.2	11.4	10.4	8.1	41.5
	27年	5.0	8.2	10.0	6.9	43.3
	28年	4.4	7.6	10.4	6.4	32.2
売店売上	平成23年	7.1	5.1	3.2	6.1	—
	24年	7.3	5.2	3.6	6.2	1.2
	25年	6.8	4.8	3.4	5.7	2.0
	26年	6.6	4.6	3.3	5.5	2.3
	27年	6.8	4.3	3.9	5.3	1.5
	28年	6.3	4.4	3.6	5.2	0.6
その他・雑収入	平成23年	9.2	7.2	1.6	8.0	—
	24年	7.3	5.9	3.9	6.5	9.9
	25年	7.7	5.9	4.2	6.7	3.5
	26年	8.5	5.8	4.4	7.1	16.9
	27年	7.2	6.7	3.7	6.7	14.6
	28年	7.0	4.7	3.1	5.7	15.5
付帯事業	平成23年	1.8	5.0	8.6	3.5	—
	24年	3.4	5.8	5.2	4.5	10.9
	25年	4.0	4.9	3.8	4.3	8.8
	26年	3.0	4.2	9.7	4.1	4.7
	27年	2.0	3.5	8.8	3.4	7.0
	28年	4.4	1.1	3.4	2.9	0.6



## (5) その他・雑収入

その他・雑収入は5.7%を占める。カラオケ酒場や夜食処、コンパニオン収入などである。

パブリック施設が充実している大旅館の比率が高く、小旅館が低い。

## (6) 付帯事業

この調査は旅館ホテル業が本業であることを前提としている。旅館ホテル業以外の事業が決算書に含まれる場合、付帯事業として回答することを求めている。具体例では、飲食業、賃貸業(駐車場)、不動産業、館内テナント収入、入浴場(日帰り入浴)、マグロ肉加工販売、婚礼業、仕出し、旅客輸送業、リラクゼーション、ボディケア、ゴルフ場などの回答があった。また、香典返しや売電という事例もあった。

## 4. 宿泊客1人当り売上高〈図3、表10、表11〉

売上高を宿泊客人数で割り算して客単価を求めている。宿泊者数を基本とするものの、日帰り単価は日帰り利用人数より求めている。

### (1) 宿泊客1人当り売上高

宿泊客1人当り売上高＝総売上高÷宿泊人員

宿泊客1人当り総売上高には日帰り売上を含めている。一方、付帯事業は含めていない。

規模別に増減があり小旅館がもっとも高くなった。小旅館は前年を1,566円上回る。

- ・大旅館 19,709円 (▲2,327円、▲10.6%)
- ・中旅館 17,673円 (▲1,550円、▲8.1%)
- ・小旅館 20,230円 (+1,566円、+8.4%)

黒字・赤字別で見ると、各規模とも黒字旅館が高単価となっている。

- ・大旅館 黒字20,021円 赤字18,305円
- ・中旅館 黒字18,529円 赤字14,760円
- ・小旅館 黒字20,619円 赤字18,933円

(ホテル)11,527円と旅館を下回った。

### (2) 宿泊客1人当り宿泊料売上

客1人当り宿泊料売上＝宿泊料売上高÷宿泊人員

客1人当りの宿泊料売上は宿泊単価である。小旅館は前年を上回るが、大旅館と中旅館は前年

を下回った。

- ・大旅館 14,919円 (▲1,668円、▲10.1%)
- ・中旅館 13,662円 (▲609円、▲4.3%)
- ・小旅館 15,535円 (+1,485円、+10.6%)

黒字・赤字別で見ると、黒字旅館が高い。

- ・大旅館 黒字15,255円 赤字13,405円
- ・中旅館 黒字14,301円 赤字11,492円
- ・小旅館 黒字16,107円 赤字13,627円

(ホテル)5,416円と旅館よりも大幅に低い。

### (3) 宿泊客1人当り料飲売上

客1人当り料飲売上＝料飲売上高÷宿泊人員

宿泊客収入のうち追加料理と飲料・冷蔵庫の合計を宿泊客1人当り料飲売上としている。旅館の平均は1,091円となっている。小旅館が前年を上回るものの低下傾向が続く。

- ・大旅館 1,151円 (▲20円、▲1.7%)
- ・中旅館 1,023円 (▲119円、▲10.4%)
- ・小旅館 1,100円 (+93円、+9.2%)

黒字・赤字別で見ると、大旅館では赤字が高く、中旅館と小旅館では赤字が低い。

- ・大旅館 黒字1,144円 赤字1,179円
- ・中旅館 黒字1,049円 赤字935円
- ・小旅館 黒字1,138円 赤字976円

(ホテル)511円と旅館より低い。

図3 客1人当り売上高の推移

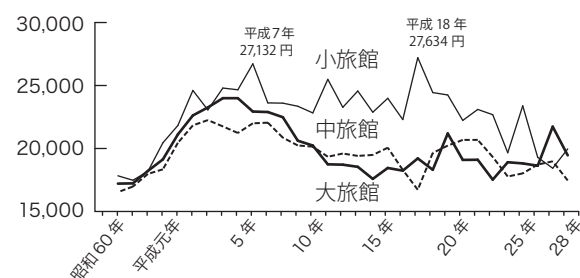


表10 宿泊客1人当り売上高 (単位: 円)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
平成23年	17,737	19,577	23,006	18,668	—
24年	19,150	17,992	19,919	18,737	18,590
25年	19,054	18,245	23,726	19,008	10,038
26年	18,866	18,962	19,542	18,959	20,792
27年	22,036	19,223	18,664	20,274	22,519
28年	19,709	17,673	20,230	18,899	11,527

#### (4) 宿泊客 1 人当り売店売上

客 1 人当り売店売上＝売店売上高 ÷ 宿泊人員

売店単価は長期的には低下傾向にある。今年度は 1,016 円と前年を 96 円下回る。大旅館の売店単価は高く規模格差が表れている。

- ・大旅館 1,293 円 (▲236 円、▲15.4%)
- ・中旅館 785 円 (▲66 円、▲7.7%)
- ・小旅館 758 円 (▲39 円、▲4.9%)

黒字・赤字別でみると、大旅館では赤字が高い。

- ・大旅館 黒字 1,272 円 赤字 1,389 円
- ・中旅館 黒字 817 円 赤字 678 円
- ・小旅館 黒字 801 円 赤字 614 円

(ホテル) 売店単価は 69 円と低くなっている。

#### (5) 宿泊客 1 人当りその他・雑収入 〈表 12〉

宿泊客 1 人当りその他・雑収入＝

(その他売上＋雑収入) ÷ 宿泊人員

館内のカラオケ酒場や夜食処の売上、出前、花代(コンパニオン)、マッサージなどの手数料収入などを「その他売上」として設問している。付帯施設が充実している大旅館ほど消費単価は高く、小旅館は低い。

- ・大旅館 1,455 円 (▲161 円、▲9.9%)
- ・中旅館 839 円 (▲505 円、▲37.6%)
- ・小旅館 653 円 (▲109 円、▲14.3%)

(ホテル) 1,804 円と旅館を上回る。

#### (6) 日帰り客 1 人当り売上

日帰り客 1 人当り売上＝日帰り客料飲売上

÷ 日帰り食事利用人員

日帰り単価は中旅館、小旅館で 5,000 円を上回る。大旅館は前年を下回った。

- ・大旅館 4,389 円 (▲1,009 円、▲18.7%)
- ・中旅館 5,454 円 (+184 円、+3.5%)
- ・小旅館 5,191 円 (+987 円、+23.5%)

黒字・赤字別でみると大旅館では赤字が高く、小旅館と中旅館ではその逆となっている。日帰り単価は黒字・赤字とは相関していない。

- ・大旅館 黒字 4,300 円 赤字 4,677 円
- ・中旅館 黒字 5,524 円 赤字 5,157 円

・小旅館 黒字 5,442 円 赤字 4,678 円

(ホテル) 5,404 円と旅館を上回る。

表 11 宿泊客一人当り売上高

(単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿 泊 料 売 上	平成 23 年	12,153	13,209	14,772	12,675	—
	24 年	12,982	13,084	13,314	13,049	5,934
	25 年	13,317	13,155	17,789	13,528	5,200
	26 年	13,720	13,496	14,549	13,704	7,194
	27 年	16,587	14,271	14,050	15,160	7,935
	28 年	14,919	13,662	15,535	14,452	5,416
料 飲 売 上	平成 23 年	1,122	1,118	1,181	1,122	—
	24 年	1,184	1,032	952	1,104	281
	25 年	1,093	1,279	1,237	1,180	647
	26 年	1,191	1,156	1,086	1,169	373
	27 年	1,171	1,142	1,007	1,140	198
	28 年	1,151	1,023	1,100	1,091	511
売 店 売 上	平成 23 年	1,256	1,003	730	1,134	—
	24 年	1,443	999	755	1,210	249
	25 年	1,341	912	849	1,131	223
	26 年	1,282	912	716	1,094	491
	27 年	1,529	851	797	1,112	363
	28 年	1,293	785	758	1,016	69
そ の 他 ・ 雑 収 入	平成 23 年	1,638	1,402	367	1,500	—
	24 年	1,456	1,129	817	1,274	2,069
	25 年	1,528	1,128	1,038	1,330	384
	26 年	1,649	1,154	951	1,402	3,694
	27 年	1,616	1,344	762	1,394	3,531
	28 年	1,455	839	653	1,102	1,804

表 12 日帰り客一人当り売上高

(単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
飲 料 売 上	平成 23 年	5,211	4,921	5,243	5,070	—
	24 年	4,984	4,914	4,400	4,865	4,258
	25 年	4,956	5,439	4,719	5,116	2,859
	26 年	5,447	5,107	4,547	5,143	7,283
	27 年	5,398	5,270	4,204	5,129	4,989
	28 年	4,389	5,454	5,191	5,000	5,404

## 5. 定員稼働率・客室稼働率〈図4、表13、表14〉

旅館ホテル業の稼働率は定員と客室を基準とする。洋室に対して和室は1室当りの定員が多い。旅館では定員どおりに販売することは難しい。

### (1) 定員稼働率

$$\text{定員稼働率} = \frac{\text{宿泊人員}}{(\text{収容定員} \times \text{営業日数})} \times 100$$

大旅館の定員稼働率はかつて55%を超えていた。長期的に低下していたが、近年は持ち直しの傾向にある。規模別では大きいほど高稼働であるという状況が続いているが、その差は縮小しつつある。小旅館の稼働率上昇が顕著となっている。

今年度は全般的に定員稼働率が低下した。

- ・大旅館 38.8% (▲1.5p、▲3.7%)
- ・中旅館 36.1% (▲0.7p、▲1.7%)
- ・小旅館 35.7% (▲0.1p、▲0.3%)

黒字旅館は高稼働で、赤字旅館は低稼働である。

- ・大旅館 黒字39.7% 赤字35.2%
- ・中旅館 黒字38.8% 赤字29.3%
- ・小旅館 黒字40.9% 赤字25.1%

(ホテル) 定員稼働率は56.1%で旅館より高稼働となっている。

### (2) 客室稼働率

$$\text{客室稼働率} = \frac{\text{利用客室数}}{(\text{客室数} \times \text{営業日数})} \times 100$$

旅館では客室ごとの定員での集客が難しいため、定員稼働率と客室稼働率の差は大きく、客室稼働が高い。規模別でみると大旅館が高く、小旅館が低い。

- ・大旅館 65.3% (▲0.2p、▲0.4%)
- ・中旅館 61.1% (▲1.8p、▲2.8%)
- ・小旅館 54.2% (▲4.9p、▲8.3%)

(ホテル) 客室稼働率は69.9%で旅館より高稼働となっている。

### (3) 地域別稼働率

定員稼働率は、四国41.8%、関西41.5%、中部と九州で40.6%と4地域が40%台となっている。規模別でみると、大旅館では九州58.1%、関東44.1%が高い。中旅館では四国46.1%が高く、小旅館では関西50.3%が高い。

客室稼働率は関西と四国で67.8%となっている。規模別でみると、70%台となっているのは、大旅館では北海道73.2%、関東71.8%。中旅館では四国75.7%、小旅館では関西73.1%。

定員稼働率と客室稼働率の高いところが一致しないのは、1室定員や1室利用人員が異なることによる。

図4 定員稼働率の推移 (%)

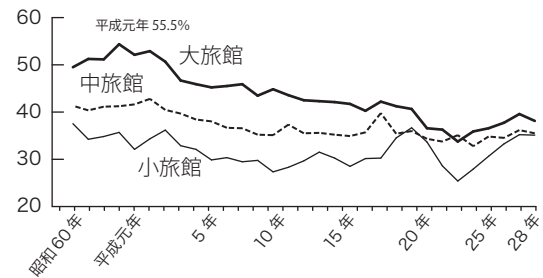


表13 定員稼働率・客室稼働率

(単位: 円)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
定員稼働率	平成23年	34.3	35.7	25.7	34.5
	24年	36.5	33.3	28.3	34.4
	25年	37.2	35.4	31.1	36.0
	26年	38.4	35.1	33.8	36.6
	27年	40.3	36.8	35.8	38.0
	28年	38.8	36.1	35.7	37.3
客室稼働率	平成23年	57.7	58.7	45.4	57.8
	24年	59.4	59.4	49.1	58.5
	25年	56.8	60.4	48.5	57.8
	26年	64.4	59.0	54.6	61.6
	27年	65.5	62.9	59.1	63.6
	28年	65.3	61.1	54.2	62.4
1室当り宿泊利用人員	平成23年	2.61	2.72	2.28	2.65
	24年	2.67	2.67	2.40	2.65
	25年	2.81	2.66	2.66	2.73
	26年	2.62	2.64	2.68	2.63
	27年	2.74	3.19	3.37	3.01
	28年	2.60	2.71	2.86	2.66

表14 地域別稼働率

(単位: 円)

地 域	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館
定員稼働率	北 海 道	41.8	28.8	31.4
	東 北	33.4	28.8	27.0
	関 東	44.1	38.3	29.1
	北 陸 信 越	32.2	30.0	32.6
	中 部	41.8	41.8	33.3
	関 西	39.9	40.8	50.3
	中 国	28.6	37.2	31.6
	四 国	-	46.1	28.2
	九 州	58.1	36.9	36.4
客室稼働率	北 海 道	73.2	43.9	52.2
	東 北	51.3	54.0	46.8
	関 東	71.8	65.6	41.7
	北 陸 信 越	63.6	54.5	45.3
	中 部	69.9	64.1	57.5
	関 西	66.6	68.1	73.1
	中 国	53.6	68.0	55.7
	四 国	-	75.7	28.5
	九 州	68.3	57.1	59.4

## 6. 売上効率

### (1) 1室当り売上高 〈図5、表15〉

1室当り売上高＝総売上高÷客室数

宿泊業にとって客室は最大の営業基盤である。客室1部屋当りの年間売上げは重要指標である。旅館は1,159万円と前年より84万円の減少となっている。小旅館は86万円の増加となっている。

- ・大旅館 1,266万円 (▲103万円、▲7.5%)
- ・中旅館 1,048万円 (▲137万円、▲11.5%)
- ・小旅館 1,163万円 (+86万円、+8.0%)

黒字・赤字の別でみると、各規模とも黒字の売上高が多い。中旅館と小旅館ではその差は顕著となっている。

- ・大旅館 黒字1,298万円 赤字1,129万円
- ・中旅館 黒字1,186万円 赤字699万円
- ・小旅館 黒字1,387万円 赤字727万円

(ホテル)1室売上高は360万円と旅館より低くなっている。

### (2) 建物面積1㎡当り売上高

建物面積1㎡当り売上高＝

総売上高÷建物延べ面積

建物延べ面積当り売上高は、営業形態の違いを排除して営業効率を分析するのに適した指標である。

規模別では中旅館がやや低い。小旅館で増加だが、大旅館と中旅館はマイナスとなっている。ただし、建物延べ面積の回答は193軒と少なく、有効回答の76.0%にとどまる。

- ・大旅館 8.4万円 (▲1.4万円、▲14.1%)
- ・中旅館 7.5万円 (▲0.9万円、▲10.8%)
- ・小旅館 9.5万円 (+1.1万円、+13.5%)

面積当り売上では、黒字・赤字別の差が明確に表れているといえる。

- ・大旅館 黒字8.5万円 赤字8.0万円
- ・中旅館 黒字8.3万円 赤字5.2万円
- ・小旅館 黒字11.8万円 赤字6.0万円

(ホテル)面積当り売上高は旅館より低い。

### (3) 就業者1人当り売上高

就業者1人当り売上高＝総売上高÷就業者数

旅館ホテル業の従事者は社員のみならずパートアルバイト、派遣社員や委託先で構成されている。この調査では常勤役員、社員、常勤パートを就業者とし、就業者当りの指標を算出している。

就業者1人当り売上高は大旅館ほど効率性が高く規模の差が明確となっている。

- ・大旅館 1,326万円 (+63万円、+5.0%)
- ・中旅館 888万円 (▲23万円、▲2.6%)
- ・小旅館 748万円 (▲2万円、▲0.3%)

黒字・赤字別にも格差が表れている。

- ・大旅館 黒字1,410万円 赤字1,021万円
- ・中旅館 黒字884万円 赤字906万円
- ・小旅館 黒字806万円 赤字579万円

(ホテル)809万円となっている。

図5 1室当り売上の推移 (万円)

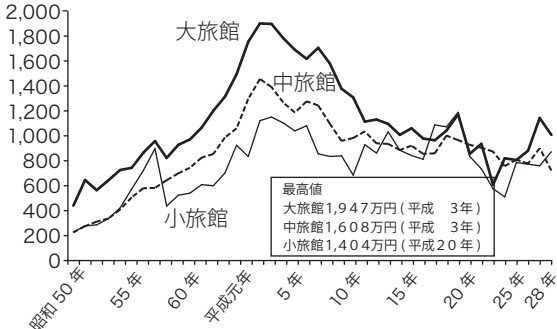


表15 売上効率

(単位: 万円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
1室当り売上高	平成23年	961	1,164	937	1,039	—
	24年	1,123	1,075	887	1,081	579
	25年	1,112	1,115	1,097	1,112	370
	26年	1,169	1,090	1,087	1,130	774
	27年	1,369	1,185	1,077	1,243	827
	28年	1,266	1,048	1,163	1,159	360
建物1㎡当り売上高	平成23年	6.8	7.8	7.5	7.2	—
	24年	7.9	7.7	7.4	7.7	8.8
	25年	7.9	7.5	8.5	7.8	7.6
	26年	8.5	7.9	8.4	8.2	7.3
	27年	9.8	8.4	8.4	8.9	7.9
	28年	8.4	7.5	9.5	8.1	6.0
就業者1人当り売上高	平成23年	1,175	905	747	1,021	—
	24年	1,172	903	722	1,008	941
	25年	1,108	867	774	952	719
	26年	1,214	875	806	1,017	1,034
	27年	1,263	911	750	1,010	865
	28年	1,326	888	748	1,033	809



## 7. 原価効率

### (1) 売上総原価率 〈図6、表16〉

売上総原価率＝売上原価 ÷ 総売上高 ×100

総原価率は平均で23.7%と前年を下回る。長期的に低下傾向にある。売店やコンパニオンなど原価率の高い売上げが伸びないことが考えられる。総原価率は規模別でみると大旅館ほど高い。

- ・大旅館 24.2% (▲0.2p、▲1.1%)
- ・中旅館 23.2% (▲0.8p、▲3.1%)
- ・小旅館 22.9% (▲1.0p、▲4.2%)

(ホテル) 総原価率は21.5%となっている。

### (2) 料理材料費率

料理材料費率＝料理材料費 ÷  
(宿泊料＋追加料理＋日帰り料理売上)×100

料理材料費率は19.8%と前年を0.7p上昇した。大旅館と小旅館で20%を下回っている。

- ・大旅館 19.4% (+0.6p、+3.3%)
- ・中旅館 20.2% (+0.8p、+4.0%)
- ・小旅館 19.9% (+1.1p、+5.9%)

黒字・赤字別では黒字旅館が低い。

- ・大旅館 黒字19.2% 赤字20.5%
- ・中旅館 黒字20.0% 赤字20.8%
- ・小旅館 黒字19.3% 赤字22.2%

なお、料理材料費率の算出は、旅館では料理売上に宿泊料を加えた額を分母とし、ホテルでは料理売上のみを分母にしてる。

(ホテル) 前年より上昇し36.9%となっている。

### (3) 飲料仕入率

飲料仕入率＝飲料仕入 ÷ 飲料売上 ×100

飲料仕入率は平均32.9%となっているが、小旅館が前年を下回っているのが特徴である。

- ・大旅館 33.2% (+1.3p、+3.9%)
- ・中旅館 33.2% (+0.8p、+2.4%)
- ・小旅館 31.2% (▲4.5p、▲12.6%)

(ホテル) 飲料仕入率は31.7%と旅館より低い。

### (4) 売店仕入率

売店仕入率＝売店仕入 ÷ 売店売上 ×100

売店原価率は前年を2.2p低下した。大旅館と中旅館の低下が顕著である。

- ・大旅館 64.0% (▲2.4p、▲3.7%)
- ・中旅館 66.4% (▲2.0p、▲2.8%)
- ・小旅館 67.5% (▲0.2p、▲0.3%)

(ホテル) 売店原価率は72.7%と前年を上回る。

図6 売上総原価率の推移 (%)

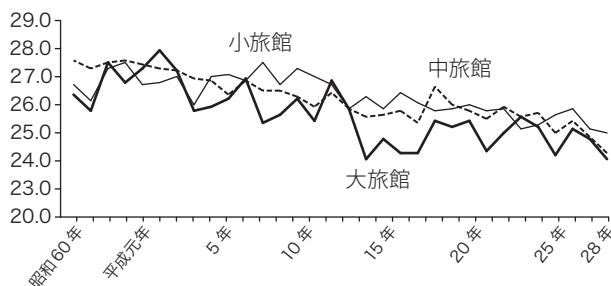


表16 原価率 (単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総原価率	平成23年	24.4	25.0	25.0	24.7	—
	24年	24.6	25.2	24.5	24.8	28.1
	25年	25.1	24.2	23.1	24.6	20.7
	26年	25.4	24.8	24.4	25.1	26.1
	27年	24.4	24.0	23.9	24.2	25.4
	28年	24.2	23.2	22.9	23.7	21.5
料理材料費率	平成23年	19.2	20.7	21.8	20.0	—
	24年	19.3	20.2	20.6	19.8	35.5
	25年	19.7	20.1	20.0	19.9	40.2
	26年	19.8	21.0	20.7	20.4	39.8
	27年	18.8	19.4	18.8	19.1	32.7
	28年	19.4	20.2	19.9	19.8	36.9
飲料仕入率	平成23年	31.7	32.3	37.6	32.2	—
	24年	31.6	34.2	34.1	32.9	31.3
	25年	31.5	33.0	32.8	32.2	32.8
	26年	31.5	33.0	34.4	32.4	24.9
	27年	31.9	32.4	35.7	32.6	29.2
	28年	33.2	33.2	31.2	32.9	31.7
売店仕入率	平成23年	67.0	65.9	64.8	66.5	—
	24年	66.6	65.7	66.8	66.3	70.0
	25年	66.6	67.8	64.6	66.9	70.2
	26年	68.2	67.0	67.3	67.8	61.4
	27年	66.4	68.4	67.7	67.3	64.1
	28年	64.0	66.4	67.5	65.1	72.7

## 8. 経費率 〈表 17、表 18〉

この調査では原価を除く経費を人件費、営業経費、管理経費、減価償却費の4つに分類している。表18では経費分類したうえで主要経費を内訳としている。

### (1) 人件費率

人件費率＝人件費 ÷ 総売上高 ×100

経費内訳より、給与・賞与、法定福利費、その他人件費、外注費の合計を人件費としている。旅館ホテル業は労働集約産業であり、他産業より人件費圧力が高い。人件費率は規模にかかわらず前年を上回った。売上高の伸び悩みが主な要因か。大旅館ほど人の効率が良い。

- ・大旅館 31.4% (+0.9p、+3.4%)
- ・中旅館 33.2% (+1.4p、+4.4%)
- ・小旅館 35.3% (+1.0p、+3.1%)

赤字旅館は黒字旅館よりも人件費率が高い。特に赤字小旅館は37.5%と高い。資料編より内訳をみると、赤字旅館は給与・賞与率が高く、黒字旅館はその他人件費が高い。

- ・大旅館 黒字31.1% 赤字 32.8%
- ・中旅館 黒字32.8% 赤字 34.9%
- ・小旅館 黒字34.8% 赤字 37.5%

(ホテル)人件費率は34.0%と旅館より高い。ホテルは給与・賞与の率が高い。

### (2) 営業経費率

営業経費率＝営業経費 ÷ 総売上高 ×100

送客手数料、カード手数料、広告宣伝費、接待交際費、旅費交通費といった販売経費。客用消耗品費、洗濯リネン費といった利用人員に比例する経費をもって営業経費としている。営業経費率は上昇し小旅館が顕著であった。平均では前年より0.6pの上昇となっている。

- ・大旅館 13.8% (+0.0p、+0.3%)
- ・中旅館 14.8% (+0.7p、+5.3%)
- ・小旅館 14.1% (+2.4p、+20.9%)

黒字・赤字別でみると、営業経費率は赤字旅館が高い。

- ・大旅館 黒字13.7% 赤字 14.4%
- ・中旅館 黒字14.7% 赤字 15.6%
- ・小旅館 黒字14.0% 赤字 14.4%

営業経費率の内訳をみると、大旅館では送客手数料料率が高い。小旅館では客用消耗品費率が高い。(ホテル)9.4%と旅館より低い。送客手数料料率などが低い。

### (3) 管理経費率

管理経費率＝管理経費 ÷ 総売上高 ×100

主なものは水道光熱費、修繕費、備品費、賃借料、通信費として、さらにその他経費を加えている。管理経費は固定費的要素が強い。

各規模とも前年を下回る。賃料と備費が前年を下回った。

表17 経費率 (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
人件費率	平成23年	30.6	32.5	40.6	31.8	—
	24年	30.2	32.5	35.8	31.6	34.8
	25年	30.3	30.7	35.3	30.9	29.8
	26年	30.5	32.2	35.2	31.6	34.5
	27年	30.3	31.8	34.3	31.4	32.8
	28年	31.4	33.2	35.3	32.5	34.0
営業経費率	平成23年	13.6	13.7	12.4	13.6	—
	24年	12.7	14.0	12.4	13.2	9.4
	25年	13.0	13.9	12.1	13.3	11.5
	26年	13.5	14.1	12.7	13.6	10.4
	27年	13.8	14.1	11.7	13.7	9.2
	28年	13.8	14.8	14.1	14.3	9.4
管理経費率	平成23年	22.2	22.3	21.6	22.2	—
	24年	21.8	21.1	22.3	21.6	21.7
	25年	21.8	22.9	21.0	22.2	25.2
	26年	20.2	20.3	20.1	20.2	19.4
	27年	19.9	21.1	21.4	20.6	21.4
	28年	19.5	20.1	18.9	19.6	22.4
減価償却費率	平成23年	7.7	6.3	7.0	7.1	—
	24年	7.1	6.4	5.8	6.7	5.7
	25年	6.1	5.7	6.8	6.0	4.9
	26年	7.0	6.7	6.9	6.9	9.6
	27年	5.5	5.3	6.0	5.5	5.4
	28年	5.8	6.2	5.5	5.9	6.6
支払利息率	平成23年	3.7	2.8	2.3	3.3	—
	24年	3.2	3.2	2.2	3.1	3.8
	25年	2.8	2.7	2.1	2.7	2.1
	26年	2.6	2.5	1.7	2.5	1.3
	27年	2.1	2.1	1.9	2.1	2.0
	28年	2.2	2.2	1.5	2.1	2.7

- ・大旅館 19.5% (▲0.4p、▲2.0%)
- ・中旅館 20.1% (▲1.0p、▲4.7%)
- ・小旅館 18.9% (▲2.5p、▲11.7%)

管理経費率は黒字旅館で低く、赤字旅館では高くなっている。資料編(表4-1)より内訳をみていくと水道光熱費率と賃借料率が赤字旅館では高い。

特に赤字旅館は水道光熱費が高い。

- ・大旅館 黒字19.4% 赤字 19.5%
- ・中旅館 黒字19.2% 赤字 23.7%
- ・小旅館 黒字18.2% 赤字 21.9%

(ホテル)管理経費率は22.4%で、旅館と比較すると賃借料が高い。

#### (4) 減価償却費率

減価償却費率=減価償却費 ÷ 総売上高 ×100

建物等の償却資産を毎年減価償却費として計上する経費であり、本来、売上や収益に関係なく計上

される。平均では前年より+0.4Pとなっている。

- ・大旅館 5.8% (+0.3p、+4.7%)
- ・中旅館 6.2% (+0.9p、+17.0%)
- ・小旅館 5.5% (▲0.5p、▲8.4%)

黒字・赤字の別では、赤字旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字5.4% 赤字 7.6%
- ・中旅館 黒字5.8% 赤字 7.5%
- ・小旅館 黒字4.9% 赤字 7.7%

(ホテル)6.6%で旅館と同水準となっている。

#### (5) 支払利息率

支払利息率=支払利息 ÷ 総売上高 ×100

支払利息率は売上高に占める支払利息の割合である。長期的に低下傾向にあり、大旅館中旅館で2.2%となっている。

- ・大旅館 2.2% (+0.1p、+8.8%)
- ・中旅館 2.2% (+0.1p、+0.2%)
- ・小旅館 1.5% (▲0.4p、▲22.5%)

(ホテル)2.7%と旅館よりやや高い。

表18 主要経費構成比

(単位：%)

	(大旅館)		(中旅館)		(小旅館)		旅館		ホテル	
	27年	28年	27年	28年	27年	28年	27年	28年	27年	28年
総売上高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
売上原価	24.4	24.2	23.9	23.1	24.1	22.9	24.1	23.6	25.6	21.7
売上総利益	75.6	75.8	76.1	76.9	76.0	77.1	75.9	76.4	74.4	78.3
販売費及び一般管理費	69.5	70.5	72.2	74.2	73.4	73.9	71.2	72.3	68.9	72.3
人件費	30.3	31.4	31.8	33.2	34.3	35.3	31.4	32.5	32.8	34.0
給与・賞与	19.3	20.0	24.1	25.2	28.6	28.5	22.5	23.0	25.0	27.0
法定福利費	2.6	2.9	2.8	3.0	3.1	3.2	2.7	3.0	3.3	2.8
その他人件費	1.2	1.4	1.9	1.6	1.0	1.8	1.5	1.5	1.1	1.5
外注費	7.2	7.1	3.0	3.4	1.6	1.9	4.7	5.1	3.5	2.7
営業経費	13.8	13.8	14.1	14.8	11.7	14.1	13.7	14.3	9.2	9.4
送客手数料	7.5	7.6	7.1	7.3	4.6	5.9	7.0	7.3	2.0	2.7
カード手数料	0.5	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	0.6	0.6	0.7	0.5
広告宣伝費	1.6	1.2	1.5	1.5	1.3	1.4	1.5	1.4	2.4	1.1
接待交際費	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	0.2
旅費交通費	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	0.5	0.5	0.3	0.3
客用消耗品費	1.9	2.1	2.2	2.4	2.3	2.9	2.1	2.3	1.8	2.0
洗濯リネン費	1.7	1.8	1.9	2.0	1.8	1.8	1.8	1.9	1.6	2.6
管理経費	19.9	19.5	21.1	20.1	21.4	18.9	20.6	19.6	21.4	22.4
水道光熱費	5.6	5.9	6.5	6.3	6.5	5.7	6.1	6.0	5.1	5.7
修繕費	2.3	2.2	2.0	2.7	2.4	2.5	2.1	2.4	2.3	2.0
備品費	1.2	0.8	0.9	1.0	0.8	0.9	1.0	0.9	1.0	1.2
賃借料	2.4	1.4	2.6	1.6	2.5	1.8	2.5	1.5	2.3	2.8
通信費	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
その他	8.1	8.8	8.6	8.1	8.8	7.5	8.4	8.4	10.3	10.2
G O P 利益	11.6	11.1	9.2	8.8	8.6	8.7	10.2	10.0	10.9	12.6
減価償却費	5.5	5.8	5.3	6.2	6.0	5.5	5.5	5.9	5.4	6.6
営業利益	6.0	5.4	3.9	2.7	2.6	3.2	4.7	4.1	5.5	6.0
営業外収益	1.9	2.0	1.8	2.1	3.1	1.9	2.0	2.0	3.5	1.2
営業外費用	2.3	2.7	2.4	2.6	2.2	1.5	2.3	2.5	2.9	3.5
(うち支払利息)	2.1	2.2	2.1	2.2	1.9	1.5	2.1	2.1	2.0	2.7
経常利益	5.6	4.7	3.4	2.2	3.5	3.5	4.3	3.6	6.1	3.7
償却前利益	11.1	10.5	8.6	8.3	9.5	9.0	9.8	9.5	11.5	10.3

(注)GOP 利益は Gross Operation Profit の略で業務総利益。減価償却費+営業利益で求めている。

## 9. 客1人当り経費 〈表19〉

### 客1人当り経費＝経費 ÷ 宿泊人員

客1人当り経費は客当り総売上に関連する傾向がある。なお、この項では総売上高には付帯事業売上を含めている。小旅館で前年を上回るが、平均では885円の低下となっている。

(ホテル)客当り経費は前年より大幅減である。

#### (1) 客1人当り人件費

客1人当り人件費は小旅館が7,491円と高く、中旅館がもっとも低くなっている。

- ・大旅館 6,463円 (▲355円、▲5.2%)
- ・中旅館 5,907円 (▲449円、▲7.1%)
- ・小旅館 7,491円 (+427円、+6.0%)

(ホテル)3,968円と旅館を下回る。

#### (2) 客1人当り営業経費

営業経費は前年を113円下回る。送客手数料や広告宣伝費が大旅館と中旅館で低下した。

・大旅館 2,853円 (▲253円、▲8.1%)

・中旅館 2,642円 (▲176円、▲6.2%)

・小旅館 2,992円 (+584円、+24.3%)

(ホテル)1,096円と旅館に比較し大幅に少ない。

#### (3) 客1人当り管理経費

管理経費は平均で508円の減少となった。賃借料や水道光熱費が減少している。

・大旅館 4,009円 (▲457円、▲10.2%)

・中旅館 3,572円 (▲639円、▲15.2%)

・小旅館 4,011円 (▲410円、▲9.3%)

(ホテル)2,611円と前年に対して大幅減となった。

#### (4) 客1人当り減価償却費

各規模とも同水準となっている。

・大旅館 1,194円 (▲51円、▲4.1%)

・中旅館 1,096円 (+43円、+4.1%)

・小旅館 1,167円 (▲72円、▲5.8%)

(ホテル)減価償却費は767円と旅館を下回る。

表19 宿泊客1人当り主要経費

(単位：円)

	(大旅館)		(中旅館)		(小旅館)		旅館		ホテル	
	27年	28年	27年	28年	27年	28年	27年	28年	27年	28年
総売上高	22,488	20,607	19,999	17,806	20,620	21,201	21,061	19,501	24,499	11,670
売上原価	5,498	4,985	4,775	4,114	4,959	4,855	5,084	4,606	6,268	2,531
売上総利益	16,991	15,623	15,224	13,692	15,661	16,346	15,977	14,895	18,231	9,139
販売費及び一般管理費	15,635	14,520	14,437	13,217	15,131	15,661	14,986	14,101	16,878	8,441
人件費	6,818	6,463	6,356	5,907	7,064	7,491	6,611	6,344	8,043	3,968
給与・賞与	4,342	4,113	4,823	4,491	5,899	6,034	4,734	4,482	6,122	3,154
法定福利費	590	591	553	536	635	671	576	577	802	330
その他人件費	271	297	382	282	210	376	320	299	264	173
外注費	1,615	1,463	598	599	320	410	980	986	854	311
営業経費	3,106	2,853	2,818	2,642	2,408	2,992	2,893	2,780	2,255	1,096
送客手数料	1,688	1,558	1,412	1,306	955	1,260	1,479	1,420	496	311
カード手数料	104	97	120	128	158	193	117	120	162	55
広告宣伝費	351	255	302	263	261	304	318	264	598	127
接待交際費	57	62	55	54	71	87	58	61	97	28
旅費交通費	103	94	109	98	114	145	107	101	69	32
客用消耗品費	417	426	442	433	472	622	435	450	436	239
洗濯リネン費	386	362	377	360	377	381	381	363	397	304
管理経費	4,466	4,009	4,211	3,572	4,421	4,011	4,334	3,826	5,253	2,611
水道光熱費	1,259	1,210	1,307	1,128	1,346	1,217	1,291	1,177	1,252	665
修繕費	509	462	395	472	487	521	449	473	573	235
備品費	264	162	187	181	156	201	215	174	245	138
賃借料	537	288	524	277	512	386	528	294	564	328
通信費	70	70	78	77	101	100	77	76	89	52
その他	1,828	1,817	1,720	1,437	1,818	1,587	1,773	1,632	2,530	1,193
G O P 利益	2,601	2,297	1,840	1,571	1,769	1,852	2,139	1,944	2,681	1,465
減価償却費	1,245	1,194	1,053	1,096	1,239	1,167	1,148	1,150	1,328	767
営業利益	1,356	1,103	787	475	530	685	991	794	1,353	698
営業外収益	421	419	363	372	643	395	413	397	848	138
営業外費用	516	548	477	461	450	324	490	487	705	403
(うち支払利息)	463	462	430	384	391	312	439	413	490	314
経常利益	1,260	974	672	386	723	748	914	703	1,496	433
償却前利益	2,506	2,168	1,725	1,482	1,962	1,915	2,062	1,853	2,824	1,200

## 10. 利益率 〈図7、表20、表21〉

利益とは、「売上一経費」である。売上から原価を差し引いた売上総利益、さらに売上総利益から諸経費を差し引いた営業利益など各段階ごとに利益を算出している。

### (1) 売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

売上総利益率は平均で0.5pの上昇となっている。

- ・大旅館 75.8% (+0.2p、+0.3%)
- ・中旅館 76.9% (+0.8p、+1.0%)
- ・小旅館 77.1% (+1.1p、+1.5%)

黒字・赤字別では黒字旅館が高いが顕著な差とまではいえない。

- ・大旅館 黒字 76.1% 赤字 74.2%
- ・中旅館 黒字 77.1% 赤字 76.1%
- ・小旅館 黒字 77.5% 赤字 75.7%

(ホテル) 旅館に比較し高い。

### (2) GOP 利益率 (償却前営業利益率)

$$\text{GOP 利益率} = (\text{減価償却費} + \text{営業利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

GOP利益は、売上高から運営経費を控除した利益である。GOPは Gross Operation Profit の略で、直訳すれば「運営総利益」である。Profitは利益であるからGOP利益という表現はおかしいがあえて利益をつけている。

運営経費には減価償却費や固定資産税、支払利息は含まないとされるが、この調査では減価償却費と営業利益の合計でGOP利益を求めている。

GOP利益を求める根拠は所有と運営を分離して把握したいという考えから来ている。すなわち、GOP利益は支配人など運営トップの成績表といえる。

GOP利益率は大旅館で高く、小旅館で低い。

- ・大旅館 11.1% (▲0.5p、▲3.6%)
- ・中旅館 8.8% (▲0.4p、▲4.1%)
- ・小旅館 8.7% (+0.1p、+1.8%)

黒字・赤字別では差が顕著になっている。

- ・大旅館 黒字11.9% 赤字 7.5%
- ・中旅館 黒字10.5% 赤字 1.9%
- ・小旅館 黒字10.5% 赤字 1.9%

(ホテル) 12.6%と旅館業を上回る。

### (3) 営業利益率 〈図7〉

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

営業利益率は平成22年ごろを底に回復傾向となっている。小旅館は前年を上回る。

- ・大旅館 5.4% (▲0.6p、▲11.2%)
- ・中旅館 2.7% (▲1.2p、▲32.2%)
- ・小旅館 3.2% (+0.6p、+25.7%)

黒字・赤字別では営業利益率の差は顕著になっている。小旅館で差は10pを超える。

- ・大旅館 黒字6.4% 赤字 ▲0.1%
- ・中旅館 黒字4.7% 赤字 ▲5.6%
- ・小旅館 黒字5.5% 赤字 ▲5.9%

(ホテル) 6.0%と旅館より高い。

図7 営業利益率の推移 (%)

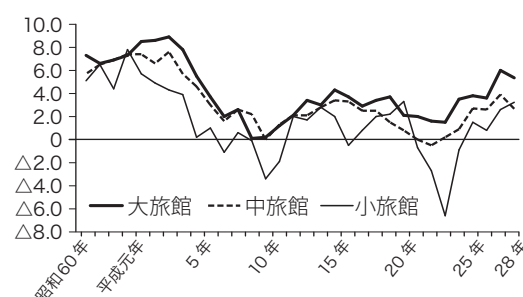


表20 利益率

(単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総利益率	平成23年	75.6	75.0	74.9	75.3	—
	24年	75.4	74.9	75.4	75.2	73.8
	25年	74.9	75.8	76.6	75.4	79.4
	26年	74.6	75.3	75.7	75.0	73.9
	27年	75.6	76.1	76.0	75.9	74.4
	28年	75.8	76.9	77.1	76.4	78.3
G O P 利益率	平成23年	9.2	6.5	0.2	7.7	—
	24年	10.7	7.3	4.9	8.9	7.8
	25年	9.8	8.3	8.1	9.1	12.9
	26年	10.4	8.7	7.7	9.5	9.6
	27年	11.6	9.2	8.6	10.2	10.9
	28年	11.1	8.8	8.7	10.0	12.6
営業利益率	平成23年	1.5	0.2	▲ 6.8	0.6	—
	24年	3.5	0.9	▲ 0.9	2.1	2.1
	25年	3.8	2.6	1.3	3.1	8.0
	26年	3.4	2.0	0.7	2.7	3.7
	27年	6.0	3.9	2.6	4.7	5.5
	28年	5.4	2.7	3.2	4.1	6.0



#### (4) 経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

経常利益率はプラス3.6%と黒字を維持した。  
営業利益ほどもは規模格差がない。

- ・大旅館 4.7% (▲0.9p、▲15.7%)
- ・中旅館 2.2% (▲1.2p、▲35.6%)
- ・小旅館 3.5% (+0.0p、+0.6%)

黒字・赤字別とは経常利益を基準としている。

黒字・赤字別の経常利益率は、

- ・大旅館 黒字6.5% 赤字 ▲4.2%
- ・中旅館 黒字4.5% 赤字 ▲7.5%
- ・小旅館 黒字5.9% 赤字 ▲6.0%

(ホテル)経常利益率は3.7%と旅館平均を上回っている。

#### (5) 償却前利益率

$$\text{償却前利益率} = (\text{減価償却費} + \text{税引き前利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

経常利益に減価償却費を加えたのが償却前利益である。減価償却費は資産償却のため現金の支出を伴わない。したがって、償却前利益が営業上発生する現金である。この現金が借入金の返済原資となる。大旅館では2桁を維持した。

- ・大旅館 10.5% (▲0.6p、▲5.6%)
- ・中旅館 8.3% (▲0.3p、▲3.5%)
- ・小旅館 9.0% (▲0.5p、▲5.1%)

(ホテル)10.3%と旅館より高くなっている。

表21 利益率 (単位：%)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
経常利益率	平成23年	▲0.6	▲2.8	▲3.6	▲1.6	—
	24年	2.9	▲0.3	▲1.1	1.3	▲0.1
	25年	3.6	2.0	2.3	2.8	6.8
	26年	2.6	1.5	1.2	2.1	4.8
	27年	5.6	3.4	3.5	4.3	6.1
	28年	4.7	2.2	3.5	3.6	3.7
償却前利益率	平成23年	7.0	4.3	1.0	5.6	—
	24年	7.0	9.0	5.1	7.7	4.9
	25年	9.6	7.6	9.1	8.8	11.7
	26年	9.6	8.2	8.1	8.9	10.7
	27年	11.1	8.6	9.5	9.8	11.5
	28年	10.5	8.3	9.0	9.5	10.3

#### 11. 就業者 (表22、表23)

旅館ホテル業には様々な雇用形態の人が従事している。この調査では常勤者である常勤役員、正社員、常勤パートタイマーを就業者としている。

##### (1) 就業者の数

$$\text{就業者数} = \text{常勤役員} + \text{正社員} + \text{常勤パートタイマー}$$

1軒当り就業者数は大旅館と中旅館で減少となった。

- ・大旅館 143人 (▲25人、▲15.0%)
- ・中旅館 67人 (▲11人、▲13.9%)
- ・小旅館 31人 (+3人、+9.1%)

(ホテル)1軒当り就業者数は30人となっている。

##### (2) 正社員の平均年齢

男性は平均で45.9歳と前年よりやや上昇した。大旅館が若い。女性は平均で43.1歳となっている。新卒の採用がある大旅館は36.6歳と若く、小旅館は45.4歳と年齢が高い。

表22 就業者数 (単位：人)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
就業者数	平成23年	137	79	26	87	—
	24年	161	74	24	77	46
	25年	165	75	28	78	34
	26年	152	69	25	72	77
	27年	168	78	28	74	86
	28年	143	67	31	68	30

表23 正社員の年齢 (単位：歳)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
男性	平成23年	40.8	44.4	44.7	43.4	－
	24年	42.3	44.2	46.7	44.6	45.6
	25年	42.8	45.2	46.5	45.1	44.7
	26年	42.0	45.8	45.1	44.8	42.5
	27年	42.5	45.8	46.1	45.4	43.3
	28年	42.8	46.6	46.5	45.9	48.6
女性	平成23年	36.6	41.9	45.6	40.9	－
	24年	37.1	42.0	45.8	42.3	39.0
	25年	37.3	42.1	46.0	42.3	41.0
	26年	36.2	41.9	46.9	42.3	42.1
	27年	36.7	42.5	47.3	43.2	39.4
	28年	36.6	43.8	45.4	43.1	44.2

## 12. 従業員効率 〈図 8、表 24、表 25〉

### (1) 1 室当り就業者数

1 室当り就業者数＝就業者数 ÷ 客室数

1室当り就業者数は1.13名で前年より減員となっている。大旅館は0.96人となっている。大旅館ほど人の効率がよい。

- ・大旅館 0.96人 (▲0.12人、▲11.9%)
- ・中旅館 1.20人 (▲0.12人、▲9.3%)
- ・小旅館 1.58人 (+0.09人、+5.8%)

黒字・赤字別をみると、大旅館では赤字旅館の方が人が多い。中旅館と小旅館ではその逆になっている。

- ・大旅館 黒字0.92人 赤字 1.11人
- ・中旅館 黒字1.35人 赤字 0.78人
- ・小旅館 黒字1.74人 赤字 1.26人

(ホテル)0.45人で旅館より人が少ない。

### (2) 就業者 1 人当り年間宿泊人員 〈表 24〉

就業者 1 人当り年間宿泊人員＝

年間宿泊利用人員 ÷ 就業者数

就業者当りの宿泊人員は前年を50名上回る。

大旅館643人に対して小旅館は357人とどまる。

- ・大旅館 643人 (+81人、+14.6%)
- ・中旅館 491人 (+37人、+8.3%)
- ・小旅館 357人 (▲3人、▲0.7%)

黒字・赤字別では大旅館や小旅館で黒字の方が多い。

- ・大旅館 黒字671人 赤字 544人
- ・中旅館 黒字467人 赤字 605人
- ・小旅館 黒字378人 赤字 298人

(ホテル)696人と旅館より多い。

### (3) 就業者 1 人当り人件費

就業者 1 人当り人件費＝

(外注費などを含む) 人件費 ÷ 就業者数

人件費には正規給与の他に外注費や臨時・アルバイトの給与、法定福利費などが含まれる。人件費をあえて就業者数で割り出している。大旅館が多く小旅館が少ない。

- ・大旅館 416万円 (+33万円、+8.6%)
- ・中旅館 291万円 (▲1万円、▲0.1%)
- ・小旅館 266万円 (+9万円、+3.4%)

黒字・赤字別をみると、大旅館と小旅館では黒字

の方が人件費が多い。

- ・大旅館 黒字438万円 赤字 335万円
- ・中旅館 黒字285万円 赤字 318万円
- ・小旅館 黒字282万円 赤字 219万円

(ホテル)276万円と旅館より少ない。

### (4) 労働生産性

労働生産性＝売上総利益 ÷ 就業者数

労働生産性は就業者1人当り売上総利益であり人件費支払いの原資といえる。大旅館で高く、小旅館で低い。

- ・大旅館 1,005万円 (+51万円、+5.4%)
- ・中旅館 675万円 (▲24万円、▲3.4%)

表 24 従業員効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室 当り 就業者 数 (人)	平成23年	0.82	1.29	1.26	1.02	—
	24年	0.96	1.22	1.21	1.08	0.62
	25年	0.91	1.27	1.52	1.12	0.64
	26年	0.96	1.25	1.40	1.12	0.75
	27年	1.08	1.32	1.49	1.25	0.96
	28年	0.96	1.20	1.58	1.13	0.45
就業者1人 当り年間 宿泊人員 (人)	平成23年	663	458	335	546	—
	24年	591	467	345	511	449
	25年	590	457	308	494	494
	26年	624	442	369	514	475
	27年	562	454	360	478	355
	28年	643	491	357	528	696
就業者1人 当り人件 費(万円)	平成23年	360	295	313	326	—
	24年	354	295	259	319	318
	25年	388	270	270	321	333
	26年	370	278	287	320	357
	27年	383	292	257	319	289
	28年	416	291	266	336	276

表 25 労働生産性、労働分配率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
労働生産性 (万円)	平成23年	889	678	559	769	—
	24年	884	676	543	758	676
	25年	828	658	593	718	551
	26年	906	658	609	762	765
	27年	954	699	568	770	654
	28年	1,005	675	580	789	635
労働分配率 (%)	平成23年	40.5	43.4	54.2	42.2	—
	24年	40.1	43.0	46.3	41.7	43.4
	25年	40.5	40.5	46.2	40.9	37.5
	26年	40.9	42.8	46.6	42.1	46.7
	27年	40.1	41.7	45.1	41.4	44.1
	28年	41.4	43.1	45.8	42.6	43.4

- ・小旅館 580万円 (+12万円、+2.1%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と小旅館で顕著な差がみられる。

- ・大旅館 黒字1,073万円 赤字 758万円
- ・中旅館 黒字671万円 赤字 689万円
- ・小旅館 黒字630万円 赤字 440万円

(ホテル) 635万円と旅館を下回る。

## (5) 労働分配率 〈図 8〉

労働分配率＝(外注費などを含む) 人件費 ÷  
売上総利益 ×100

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率である。旅館ホテル経営では労働分配率40%以内が基準であると言われる。小旅館では45.8%と高い。大旅館が低い、前年より上昇している。

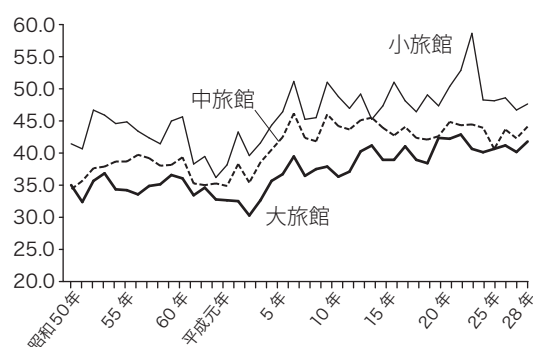
- ・大旅館 41.4% (+1.3p、+3.1%)
- ・中旅館 43.1% (+1.4p、+3.3%)
- ・小旅館 45.8% (+0.7p、+1.6%)

黒字・赤字別でみると、各規模とも顕著な差となっている。大旅館では3.4p差に対して小旅館では4.6p差である。赤字小旅館は労働分配率は50%に近い。

- ・大旅館 黒字40.8% 赤字44.2%
- ・中旅館 黒字42.5% 赤字45.9%
- ・小旅館 黒字44.9% 赤字49.5%

(ホテル) 43.4%と3年連続して改善している。

図8 労働分配率の推移 (%)



## 13. 建物面積効率 〈表 26〉

### (1) 1室当り建物延べ面積

1室当り建物延べ面積＝建物延べ面積 ÷ 客室数

小旅館の1室当り面積が小さい。会議室など客室以外の付帯施設の差であると考えられる。

- ・大旅館 153m<sup>2</sup> (+10m<sup>2</sup>、+7.0%)
- ・中旅館 142m<sup>2</sup> (▲5m<sup>2</sup>、▲3.3%)
- ・小旅館 123m<sup>2</sup> (+1m<sup>2</sup>、+0.7%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と中旅館では黒字が広く、小旅館では赤字が広い。

- ・大旅館 黒字155m<sup>2</sup> 赤字 147m<sup>2</sup>
- ・中旅館 黒字143m<sup>2</sup> 赤字 138m<sup>2</sup>
- ・小旅館 黒字119m<sup>2</sup> 赤字 128m<sup>2</sup>

(ホテル) 1室当り建物延べ面積は49m<sup>2</sup>と旅館の3分の1となっている。

### (2) 定員1人当り提供面積

定員1人当り提供面積＝建物延べ面積 ÷ 収容定員

1室当り面積と同様に大旅館が広く小旅館が小さくなっているが、その差は小さい。

- ・大旅館 33.8m<sup>2</sup> (+0.6m<sup>2</sup>、+1.8%)
- ・中旅館 31.7m<sup>2</sup> (▲0.4m<sup>2</sup>、▲1.2%)
- ・小旅館 29.3m<sup>2</sup> (+1.5m<sup>2</sup>、+5.5%)

(ホテル) 定員面積は32.4m<sup>2</sup>と旅館と同水準。

表26 建物面積効率 (単位：m<sup>2</sup>)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室当り延べ面積	平成23年	138	148	128	142	—
	24年	143	141	119	140	66
	25年	143	145	119	142	55
	26年	144	147	135	145	59
	27年	143	147	122	143	77
	28年	153	142	123	145	49
定員1人当り延べ面積	平成23年	31.6	32.2	33.2	31.9	—
	24年	33.3	30.1	28.0	31.5	40.5
	25年	34.9	31.5	28.2	32.9	31.0
	26年	33.3	33.2	33.0	33.2	29.3
	27年	33.2	32.1	27.8	32.0	51.4
	28年	33.8	31.7	29.3	32.4	32.4



## 14. 資本効率・資金回収年数 〈表 27〉

### (1) 総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示す。今年度は小旅館で上昇だが、大旅館と中旅館では減少となった。

- ・大旅館 2.3% (▲1.3p、▲36.1%)
- ・中旅館 1.6% (▲0.4p、▲19.3%)
- ・小旅館 2.6% (+0.5p、+27.5%)

黒字・赤字別では顕著な差が現れている。

- ・大旅館 黒字3.5% 赤字 ▲2.0%
- ・中旅館 黒字3.3% 赤字 ▲3.4%
- ・小旅館 黒字4.7% 赤字 ▲3.9%

(ホテル) 1.4%と旅館より低くなっている。

### (2) 総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \times \text{総資本}$$

総資本回転率は、総資本に対する売上高である。この数値が高いほど投下した資本がよく回っているといえる。したがって高いほどよい。

総資本回転率は、業界ごとに標準値が異なる。旅館ホテルにあつては一般に新增改築の直後は低く、資産償却が進むに従って高い値を示す。

小旅館が高い値を示している。

- ・大旅館 0.59回 (+0.01回、+1.5%)
- ・中旅館 0.68回 (+0.09回、+15.2%)
- ・小旅館 0.73回 (+0.11回、+18.5%)

黒字・赤字別でみると、黒字旅館が高く、赤字旅館が低い。中旅館でその差は顕著となっている。

- ・大旅館 黒字0.62回 赤字0.49回
- ・中旅館 黒字0.75回 赤字0.47回
- ・小旅館 黒字0.77回 赤字0.63回

(ホテル) 0.43回で旅館より低い。

### (3) 資金回収年数

$$\text{資金回収年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

資金回収年数は借入金が理論上何年で完済するか

をみる指標である。減価償却費と経常利益の合計額を原資として、その全額を借入金返済にあてるという計算となっている。

分子である借入金が少なく、分母である利益が多いほど回収年数が短くなる。資金回収年数は小さい数値ほどよい。

小旅館で10年となっているが、大旅館と中旅館は13年を越える。

- ・大旅館 13.7年 (+4.3年、+45.7%)
- ・中旅館 13.4年 (+1.4年、+11.7%)
- ・小旅館 10.0年 (▲1.2年、▲10.7%)

黒字・赤字別でみると差が顕著である。黒字旅館では10年以下で返済が可能となっているが、赤字旅館では返済におよそ60年以上かかる。赤字の中旅館は償却前利益率が0.1%にとどまり1,700年という計算になっている。

- ・大旅館 黒字10.0年 赤字 58.9年
- ・中旅館 黒字9.3年 赤字 1,702.6年
- ・小旅館 黒字7.7年 赤字 60.8年

(ホテル) 資金回収年数は21.2年と旅館より長い。

表27 資本効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資本利益率(%)	平成23年	▲0.3	▲1.1	▲2.5	▲0.7	—
	24年	0.2	1.4	▲0.3	0.7	▲0.5
	25年	2.1	1.1	1.9	1.6	2.3
	26年	1.2	1.2	1.4	1.2	2.5
	27年	3.6	2.0	2.1	2.7	2.2
	28年	2.3	1.6	2.6	2.1	1.4
総資本回転率(回)	平成23年	0.54	0.60	0.57	0.56	—
	24年	0.55	0.52	0.43	0.52	0.33
	25年	0.54	0.55	0.66	0.55	0.64
	26年	0.63	0.69	0.71	0.66	0.40
	27年	0.58	0.59	0.62	0.59	0.35
	28年	0.59	0.68	0.73	0.64	0.43
資金回収年数(年)	平成23年	22.3	30.5	42.8	25.3	—
	24年	18.5	14.8	27.3	17.3	43.8
	25年	11.5	16.3	13.2	13.3	13.3
	26年	14.5	13.9	11.7	14.1	6.0
	27年	9.4	12.0	11.2	10.6	7.2
	28年	13.7	13.4	10.0	13.1	21.2

#### (4) 借入金依存度 〈表 28〉

$$\text{借入金依存度} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div \text{総資本} \times 100$$

借入金依存度は総資本に占める借入金の割合を示す。大旅館ほど高い依存度となっている。

- ・大旅館 79.9% (+16.0p、+25.0%)
- ・中旅館 76.6% (+13.9p、+22.1%)
- ・小旅館 65.5% (▲1.0p、▲1.5%)

赤字の大旅館が100%を越えて債務超過となっている。

- ・大旅館 黒字70.2% 赤字112.6%
- ・中旅館 黒字71.0% 赤字92.9%
- ・小旅館 黒字63.7% 赤字71.2%

(ホテル)借入金依存度は67.1%と低い。

#### (5) 自己資本比率

$$\text{自己資本比率} = \text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100$$

自己資本は資本金と利益剰余金からなる。自己資本は多いほどよい。小旅館がもっとも高い。

- ・大旅館 9.1% (▲10.8p、▲54.3%)
- ・中旅館 6.6% (▲19.1p、▲74.1%)
- ・小旅館 19.1% (+2.0p、+11.6%)

(ホテル)自己資本比率は12.9%と旅館より高い。

表 28 借入金依存度、自己資本比率 (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
借入金依存度	平成23年	86.5	80.1	67.4	83.2
	24年	79.9	71.2	65.4	75.1
	25年	61.7	64.2	76.2	63.6
	26年	79.4	79.5	64.0	78.1
	27年	63.9	62.7	66.5	63.6
	28年	79.9	76.6	65.5	77.0
(短期)	平成26年	9.1	7.4	7.2	8.4
	27年	9.1	6.0	6.9	7.5
	28年	13.2	6.1	4.9	9.6
(長期)	平成26年	70.2	72.1	56.9	69.7
	27年	54.8	56.7	59.6	56.1
	28年	66.6	70.5	60.6	67.4
自己資本比率	平成23年	3.3	7.4	18.9	5.5
	24年	10.3	19.7	22.8	15.2
	25年	26.8	24.6	10.6	24.9
	26年	10.4	4.9	17.4	9.0
	27年	19.9	25.7	17.1	22.4
	28年	9.1	6.6	19.1	9.3

## II. 全件調査

以下の項目は、回答された全ての調査票を対象に集計している。

### 1. 集客の方法 〈図 9、表 29〉

#### (1) 予約方法

お客様はどのような方法で旅館ホテルを予約されているのでしょうか。リアルエージェントと言われる旅行業、インターネット窓口であるネット業者、自社サイトのそれぞれの比率を設問している。図9の「直接その他」は100%から引き算で算出している。

#### (2) 旅行業経由

$$\text{旅行業経由} = \text{旅行業経由の宿泊人員} \div \text{年間延べ宿泊人員} \times 100$$

旅行業経由は長期に低下してきたが、今年度は前年を上回った。小旅館は4年ぶりに30%を回復した。

- ・大旅館 52.1% (+2.1p、+4.2%)
- ・中旅館 41.1% (▲2.9p、▲6.6%)
- ・小旅館 30.9% (+9.5p、+44.4%)

(ホテル)10.0%と旅館の4分の1となっている。

表 29 エージェントと自社HP (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
旅行業経由	平成23年	58.7	50.8	30.0	54.9
	24年	59.3	52.4	32.8	55.2
	25年	53.6	49.2	23.5	50.0
	26年	48.3	43.4	27.1	44.6
	27年	50.0	44.0	21.4	44.2
	28年	52.1	41.1	30.9	44.9
ネット業者経由	平成23年	17.1	19.3	37.8	18.4
	24年	17.4	21.7	33.2	19.9
	25年	15.9	20.9	34.9	19.2
	26年	17.3	21.9	34.1	20.6
	27年	19.7	26.5	35.5	24.6
自社サイトより	平成23年	5.6	6.5	17.8	6.2
	24年	5.2	7.6	18.9	6.8
	25年	9.6	11.4	22.8	11.2
	26年	9.3	13.2	21.9	11.9
	27年	8.7	12.0	18.6	11.3
	28年	7.9	10.9	15.6	10.1

(注)24年までは「インターネット経由」「うち自社サイト」と設問していた。

### (3) ネット業者経由

ネット業者経由＝ネット経由の宿泊人員  
 $\div$  年間延べ宿泊人員  $\times 100$

ネット業者経由は小旅館が牽引する形で増加してきた。今年度、小旅館のネット業者経由は前年を下回る。大旅館では初めて20%台となった。

- ・大旅館 20.1% (+0.4p、+2.0%)
- ・中旅館 27.3% (+0.8p、+3.1%)
- ・小旅館 28.6% (▲6.9p、▲19.5%)

(ホテル) 44.9%と旅館より20p近く高い。

### (4) 自社サイト経由の宿泊人員

自社サイト経由の構成比＝自社サイトよりの  
 宿泊人員  $\div$  年間延べ宿泊人員  $\times 100$

自社サイトは小旅館が先行してきたが、平成25年以降ピークアウトしている。旅館の立場からすると、手数料のかからない自社サイトからの予約を増やしたいところである。

- ・大旅館 7.9% (▲0.8p、▲9.4%)
- ・中旅館 10.9% (▲1.1p、▲8.9%)
- ・小旅館 15.6% (▲3.0p、▲16.2%)

(ホテル) 15.7%と旅館よりも高くなっている。

## 2. ホームページ〈表30、表31、表32〉

### (1) ホームページの対応言語

ホームページの対応言語で「日本語のみ」は40.3%に低下した。

外国語対応では英語が最も多い。次いで、香港や台湾で用いられている繁体字(中国語)、中国大陆で用いられている簡体字(中国語)、韓国語となっている。

- ・英語 54.1% (+5.1p)
- ・繁体字 33.1% (+9.4p)
- ・簡体字 23.0% (+7.4p)
- ・韓国語 22.3% (+6.7p)
- ・タイ語 3.9% (+2.6p)
- ・日本語のみ 40.3% (▲5.2p)

(ホテル) 日本語のみが57.1%と旅館より外国語化が進んでいない。

### (2) 予約機能

ホームページからの即時予約は88.2%が可能としている。大旅館は98%となっている。

- ・大旅館 98.0% (▲2.0p、▲2.0%)
- ・中旅館 90.9% (▲1.4p、▲1.5%)
- ・小旅館 81.5% (+4.9p、+6.4%)

(ホテル) 82.1%と旅館を下回る。

表30 自社ホームページ対応言語 (単位：%)

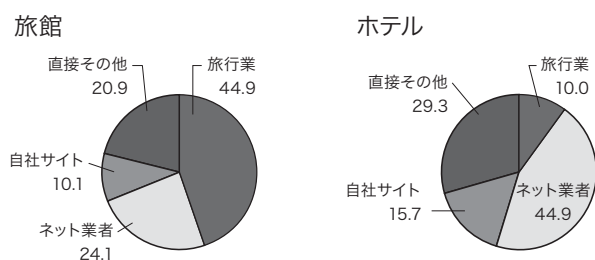
年 度	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字						
旅 館	23 年	44.3	23.2	18.2	20.2	—	—	—	53.2
	24 年	37.5	18.1	15.1	15.8	—	—	2.7	57.1
	25 年	39.1	20.1	15.1	13.0	0.7	0.7	2.7	56.2
	26 年	40.7	20.3	14.9	13.6	0.3	0.3	0.3	54.2
	27 年	49.0	23.7	15.6	15.6	1.3	0.6	0.3	45.5
	28 年	54.1	33.1	23.0	22.3	3.9	2.3	1.3	40.3
ホ テ ル	25 年	50.0	17.9	10.7	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9
	26 年	28.6	14.3	10.7	10.7	0.0	0.0	0.0	67.9
	27 年	36.4	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	60.6
	28 年	42.9	25.0	17.9	21.4	3.6	0.0	0.0	57.1

(注) タイ語、仏語、独語は25年調査より設問している。

表31 自社ホームページについて (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
自社専用HPがある	平成23年	91.7	91.2	100.0	92.8
	24年	100.0	91.5	93.4	93.8
	25年	100.0	96.4	89.0	94.3
	26年	100.0	97.6	86.3	93.6
	27年	100.0	97.2	89.8	94.5
	28年	100.0	93.9	89.5	93.1
HPから即時予約する事が可能	平成23年	96.6	93.9	82.9	92.8
	24年	100.0	93.8	78.4	89.6
	25年	96.3	87.9	80.0	86.6
	26年	96.2	90.3	76.9	86.1
	27年	100.0	92.3	76.6	86.7
	28年	98.0	90.9	81.5	88.2

図9 宿泊人員構成 (単位：%)



即時予約可能なHPがある場合の対応言語は、日本語のみが54.5%で、英語41.8%となっている。次いで、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、韓国語の順となっている。

タイ語や欧州の言語への対応もみられる。

(ホテル) 日本語のみは65.2%で、英語は30.4%となっている。中国語(簡体字、繁体字)、韓国語の順で高い。外国語対応は旅館より低い。

表32 即時予約可能な HP がある場合の対応言語 (単位：%)

28年	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字						
旅館	41.8	23.9	16.0	14.6	2.6	1.5	0.7	1.1	54.5
ホテル	30.4	17.4	21.7	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.2

表33 外国人宿泊人員比率 (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
平成 23 年	3.1	1.4	7.6	2.5	—
24 年	4.0	1.8	7.9	3.4	7.6
25 年	5.2	3.6	4.2	4.5	9.0
26 年	7.5	6.0	8.1	7.0	8.1
27 年	7.6	6.5	10.0	7.3	8.2
28 年	11.1	7.2	11.1	9.5	5.5

表34 地域別外国人宿泊人員比率 (単位：%)

地 域	27 年	28 年	前年比
北 海 道	18.3	18.2	99.5
東 北	3.0	7.5	250.0
関 東	8.4	10.2	121.4
北 陸 信 越	3.9	3.9	100.0
中 部	3.6	4.8	133.3
関 西	9.1	14.9	163.7
中 国	4.5	4.2	93.3
四 国	11.3	4.0	35.4
九 州	8.1	7.6	93.8

表35 国籍別外国人宿泊人員

(単位：%)

年 度		韓 国	台 湾	中 国	香 港	タ イ	米 国	英 国	その他不明
旅 館	平成 23 年	11.8	43.5	7.8	13.5	－	4.2	0.7	18.4
	24 年	9.3	45.3	8.7	11.4	－	5.5	0.9	18.9
	25 年	8.6	44.6	9.3	10.8	3.4	2.3	0.5	20.5
	26 年	8.2	36.6	15.6	12.4	4.1	2.4	0.7	20.0
	27 年	11.5	28.1	19.4	12.7	3.0	3.1	0.8	21.4
	28 年	15.5	26.3	23.3	12.6	4.0	3.0	0.7	14.6
ホ テ ル	平成 25 年	4.0	13.9	11.6	6.6	3.6	5.7	1.6	53.0
	26 年	8.7	15.2	15.5	5.2	4.1	4.8	1.7	44.8
	27 年	7.9	13.4	45.5	8.9	1.7	7.4	0.8	14.4
	28 年	10.4	9.8	16.6	6.9	6.8	9.3	1.5	38.7

### 3. 外国人宿泊客 〈表 32、表 33、表 34、表 35〉

#### (1) 外国人宿泊人員比率

外国人宿泊人員比率＝外国人宿泊人員

÷ 年間延べ宿泊人員 ×100

外国人宿泊人員比率は9.5%に上昇した。訪日外客の増加により、旅館に宿泊する外国人は全宿泊人員の1割に迫る。

・大旅館 11.1% (+3.5p、+46.1%)

・中旅館 7.2% (+0.7p、+10.8%)

・小旅館 11.1% (+1.1p、+11.0%)

(ホテル) 5.5%と旅館より低い。

#### (2) 地域別外国人宿泊人員比率

地域別では北海道が18.2%と高い。次いで関西の14.9%となっている。増加率をみると東北が2.5倍増となっている。次いで関西163.7%、中部133.3%が高い伸びを示したが、北海道と中国、四国、九州ではマイナスとなっている。九州では熊本地震の影響も考えられる。

#### (3) 国籍別外国人宿泊人員

外国人の国籍では台湾が最も多く26.3%を占めるが、比率は低下傾向にある。次いで多いのが中国23.3%で、中国は順調に増加している。韓国はほぼ横ばいである。

(ホテル) 中国からの来訪が16.6%と多い。

#### (4) 外国人受け入れの意向について〈表 36、表 37〉

「料金に関わりなく受け入れたい」という積極派が増加し 46.9%となっている。一方、「日本人観光客を優先する」は 24.6%となっている。

外国人の受け入れ意向を規模別にみると、「料金に関わりなく…」は中旅館がもっとも高い。小旅館は「日本人優先」も高く二極化している。

(ホテル)「日本人優先」が 46.4%と一番で、「料金に関わりなく…」は 42.9%となっている。受け入れに積極的なところとそうでないところとホテルも二極化している。

#### 4. インターネット対応 〈表 38〉

##### (1) サイトコントローラーの導入状況

多くの旅館ホテルは複数のネット業者と契約している。ネット業者に提供した客室管理を自動化するソフトがサイトコントローラーである。その導入状況は大旅館で95.9%となっているが、小旅館は62.9%と低い。

(ホテル)導入状況は60.7%と旅館の平均よりも低い。

表 36 外国人の受け入れ意向 (単位：%)

年 度		料金に関わりなく受け入れたい	高単価の外客のみ受け入れたい	日本人観光客を優先する	外客は受け入れたくない
旅 館	平成 23 年	39.9	33.0	27.1	1.5
	24 年	32.4	29.3	34.0	0.8
	25 年	40.5	25.4	27.8	2.7
	26 年	44.1	24.1	28.1	2.7
	27 年	45.1	26.6	21.4	2.9
	28 年	46.9	23.0	24.6	1.3
ホ テ ル	平成 25 年	60.7	3.6	17.9	3.6
	26 年	50.0	17.9	28.6	3.6
	27 年	51.5	9.1	33.3	0.0
	28 年	42.9	7.1	46.4	3.6

表 37 規模別外国人の受け入れ意向 (単位：%)

平成 28 年度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホ テ ル
料金に関わりなく受け入れたい	42.9	49.2	46.0	46.9	42.9
高単価の外客のみ受け入れたい	42.9	22.0	16.1	23.0	7.1
日本人観光客を優先する	12.2	24.2	29.8	24.6	46.4
外客は受け入れたくない	0.0	0.0	3.2	1.3	3.6

#### (2) 公衆無線 LAN の設置 〈表 38〉

スマートホン(スマホ)の普及により公衆無線LANのニーズが高まっている。さらに、訪日外国人は携帯電波でスマートホンを使用すると高額な国際通信料が必要となる。そのため、無料の電波は訪日外国人にとって必須といえる。

公衆無線LANを設置しているのは、旅館では92.8%となっている。規模別では大旅館の設置が100%だが、小旅館は87.9%にとどまる。

(ホテル)100%と旅館より高い。

表 38 インターネット対応状況 (単位：%)

	サイトコントローラー(手間いらず、ねっぱん、TL リンカーン等)を導入している	公衆無線 LAN を設置している
旅 館	75.7	92.8
大旅館	95.9	100.0
中旅館	80.3	94.7
小旅館	62.9	87.9
北海道	65.4	84.6
東北	77.2	93.0
関東	77.8	88.9
北陸信越	75.6	95.1
中部	82.1	92.9
関西	85.1	97.9
中国	76.5	94.1
四国	78.6	92.9
九州	70.4	96.3
ホテル	60.7	100.0



### (3) 公衆無線 LAN の設置場所〈表 39〉

次に、公衆無線LANを設置済みの旅館ホテルを対象に設置場所の設問したところ、全館は58.3%となっている。規模別では小旅館、また地域別では北陸信越、中部などで全館導入が進む。

全館導入ができていない旅館ホテルの設置場所で最も多いのはロビーとなっている。大旅館では会議室での導入が比較的多くなっている。

(ホテル)全館導入が67.9%と旅館より高くなっている。

## 3. クレジットカード〈表 40〉

### (1) クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能な旅館は92.1%に及ぶ。大旅館は98.0%が決済可能としている。小旅館は85.5%にとどまる。地域別では中部と関西が100%であったほか、東北、北陸信越、九州が90%台であった。(ホテル)96.4%が可能としており旅館の平均を上回る。

### (2) 決済端末の導入

決済可能な旅館ホテルに決済端末の普及度を設問した。大旅館で100%となっている。

地域別では、北海道、中部、関西が100%となっている。

(ホテル)決済端末の導入は96.3%となっている。

### (3) カード決済の割合

カード決済の割合は26.8%で、小旅館が最も高い。クーポン券が発行される旅行業からの送客が多い大旅館ではカード決済の割合は21.0%と低い。地域別でみると九州が31.8%と最も高い。

(ホテル)決済の割合は31.3%と旅館を上回る。

## むすび

会員同士であってもお互いの経営の内情を知り合うことは容易ではありません。この報告書は調査票をもとにした集計結果からなりますが、会員が業界の平均像を知り、自社の現状を再確認していただくことを意図しています。結果として、個々の会員が経営改善のための道筋を見い出せることを願っています。

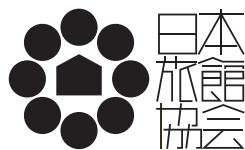
ご協力頂いた旅館ホテルの各位に深く感謝し、全会員の益々の発展を祈念致しております。

表39 公衆無線 LAN の設置場所 (単位：%)

	全館	ロビー	客室	会議室	宴会場	その他
旅館	58.3	39.2	17.7	6.7	2.1	3.2
大旅館	42.9	57.1	32.7	18.4	2.0	6.1
中旅館	57.6	40.0	16.8	6.4	3.2	4.8
小旅館	66.1	30.3	11.9	1.8	0.9	0.0
北海道	59.1	40.9	13.6	4.5	0.0	9.1
東北	60.4	37.7	5.7	5.7	1.9	1.9
関東	53.1	40.6	12.5	9.4	0.0	9.4
北陸信越	69.2	30.8	10.3	2.6	5.1	2.6
中部	65.4	34.6	19.2	7.7	0.0	0.0
関西	60.9	39.1	30.4	13.0	4.3	0.0
中国	37.5	56.3	37.5	12.5	0.0	0.0
四国	53.8	38.5	38.5	7.7	7.7	0.0
九州	50.0	46.2	19.2	0.0	0.0	7.7
ホテル	67.9	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0

表40 クレジットカード (単位：%)

	クレジットカードで決済が可能		
	決済端末を導入している	カード決済の割合	
旅館	92.1	96.8	26.8
大旅館	98.0	100.0	21.0
中旅館	96.2	97.6	27.0
小旅館	85.5	94.3	28.9
北海道	84.6	100.0	29.3
東北	91.2	96.2	25.4
関東	86.1	93.5	28.6
北陸信越	95.1	97.4	23.8
中部	100.0	100.0	27.4
関西	100.0	100.0	25.6
中国	88.2	93.3	22.2
四国	85.7	91.7	27.4
九州	92.6	92.0	31.8
ホテル	96.4	96.3	31.3



一般社団法人 **日本旅館協会**  
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

---

平成30年1月  
**営業状況等統計調査**

発行 一般社団法人 日本旅館協会  
〒102-0093  
東京都千代田区平河町 2-5-5  
全国旅館会館2階  
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

---

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。